

調査結果の概要

第1部 世帯と子供の状況

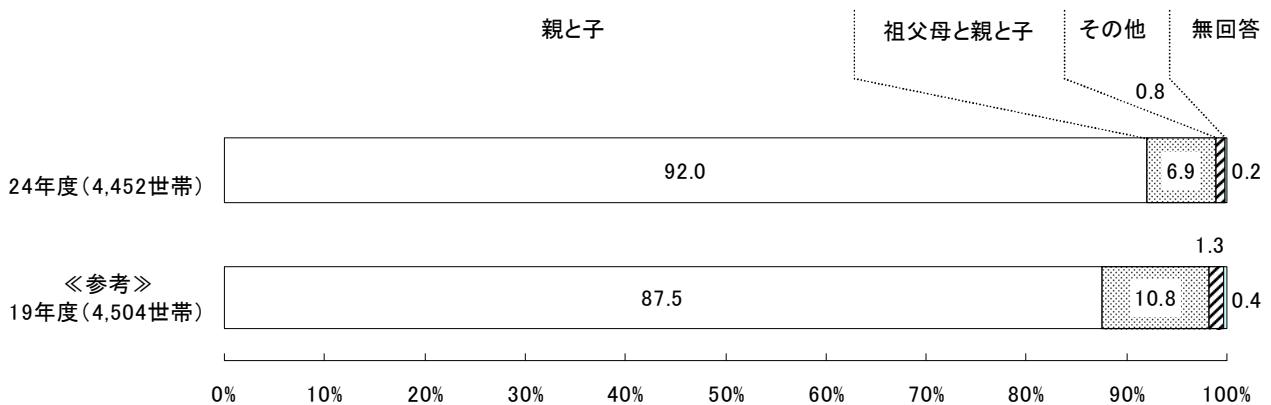
小学生までの子供を養育する3,782世帯及び20歳未満の子供を養育するひとり親670世帯を合わせた4,452世帯の概況並びにその父母（養育者）8,234人と子供1,862人の概況

1 世帯の状況

(1) 家族類型－19年度調査との比較

調査対象世帯の家族類型をみると「親と子」の二世世代世帯の割合が92.0%と最も高く、次いで「祖父母と親と子」の三世代の割合が6.9%と続く。（図I-1-1 本文13p）

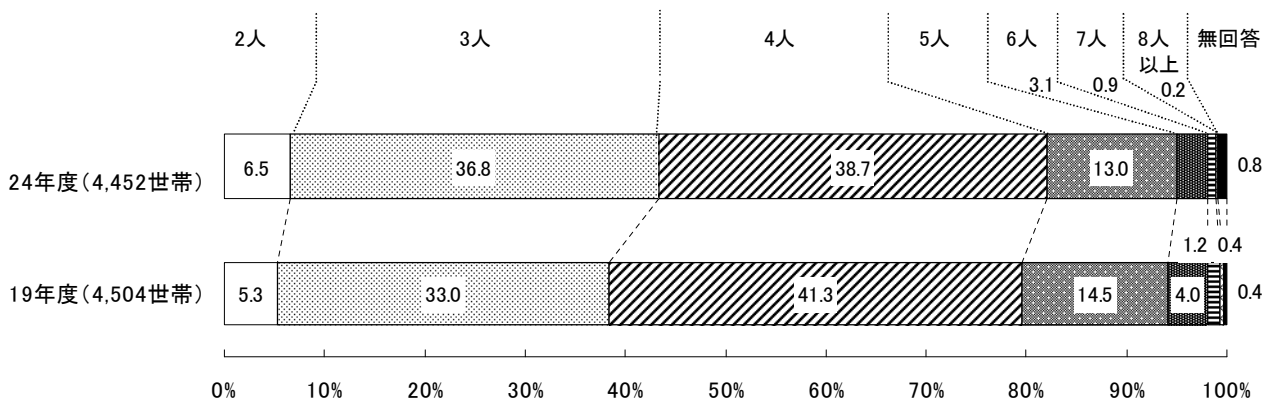
図I-1-1 家族類型－19年度調査との比較



(2) 世帯人員－19年度調査との比較

世帯人員は「4人」の割合が38.7%で最も高く、次いで「3人」の世帯が36.8%と続く。（図I-1-2 本文14p）

図I-1-2 世帯人員－19年度調査との比較

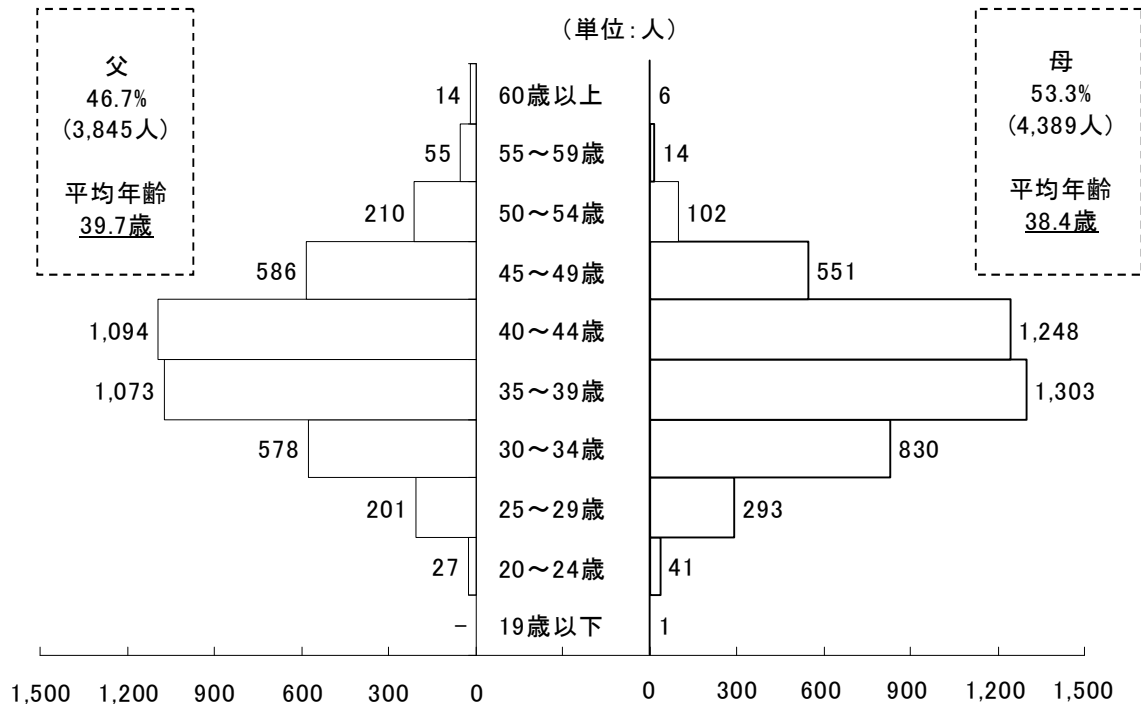


（注）・図の番号は本文中の番号である。

2 父母の状況

父母の年齢階級をみると、父親は「40～44 歳」が最も多く 1,094 人、母親は「35～39 歳」が最も多く 1,303 人となっている。平均年齢は父親 39.7 歳、母親 38.4 歳である。
(図 I-1-3 本文 14p)

図 I-1-3 父母の状況－性・年齢階級別

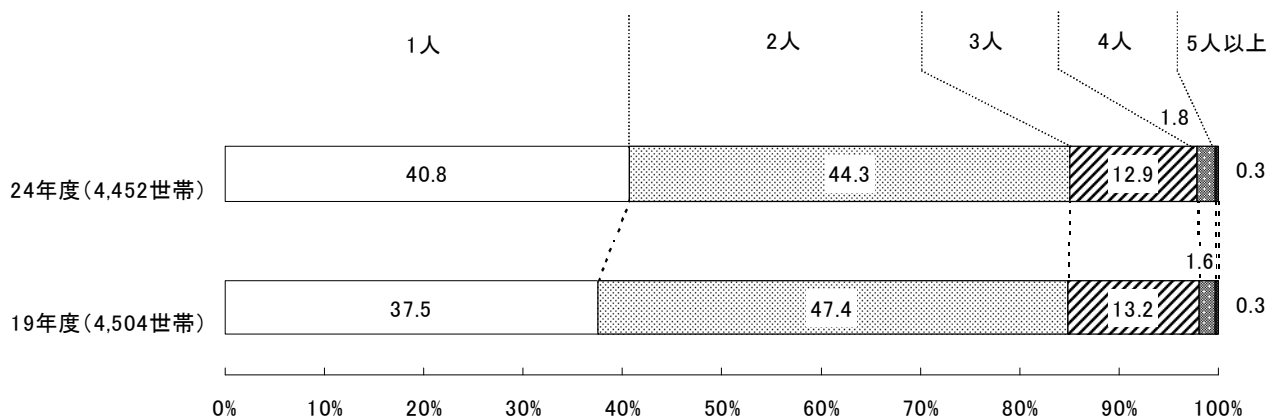


(注) 男性 3,845 人、女性 4,389 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の総数と一致しない。

3 子供の人数－19 年度調査との比較

子供の人数をみると、「2 人」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「1 人」の 40.8%となっている。(図 I-1-6 本文 16p)

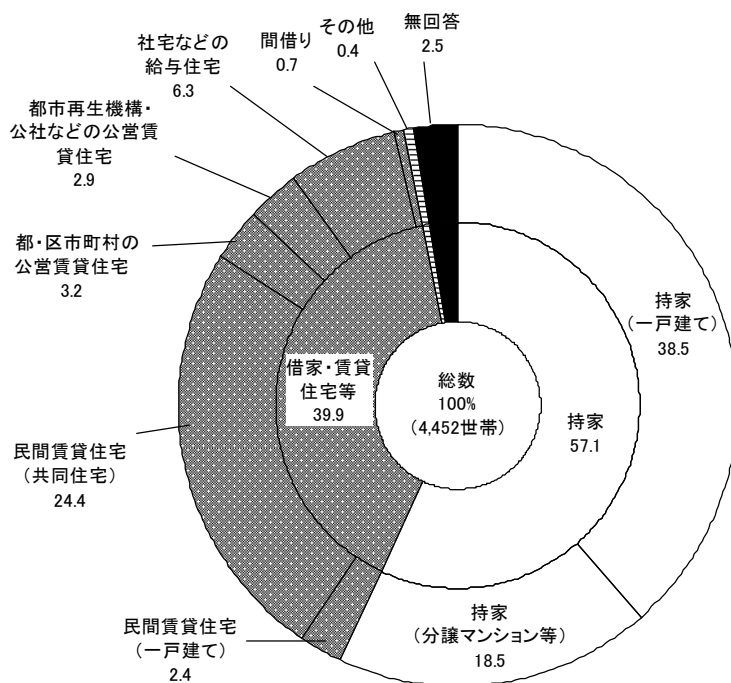
図 I-1-6 子供の人数－19 年度調査との比較



4 住居の状況

住居の種類は、「持家（一戸建て）」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」が 24.4%となっている。（図 I-1-9 本文 19p）

図 I-1-9 住居の種類



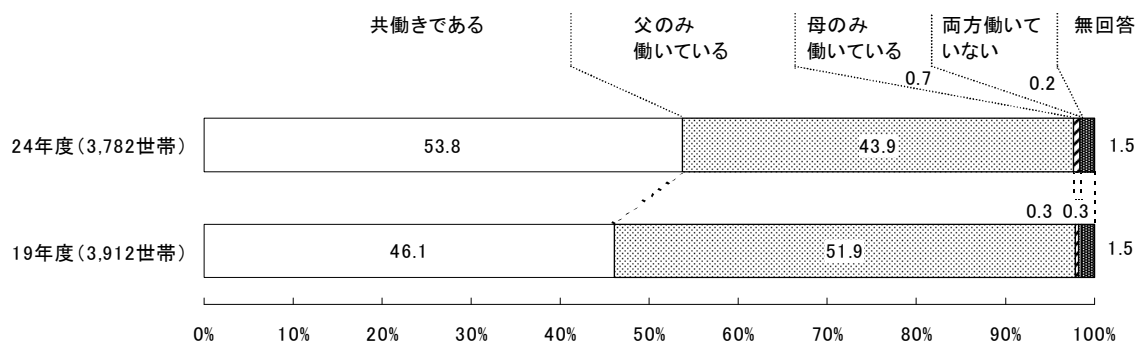
5 父母の就労の状況

(1) 共働きの状況－19年度調査との比較

「共働きである」世帯の割合が増加し、半数を超える

両親のいる世帯（3,782世帯）の共働きの状況をみると、「共働きである」割合が 53.8%で、19年度調査（46.1%）に比べて 7.7ポイント増加している。（図 I-1-12 本文 22p）

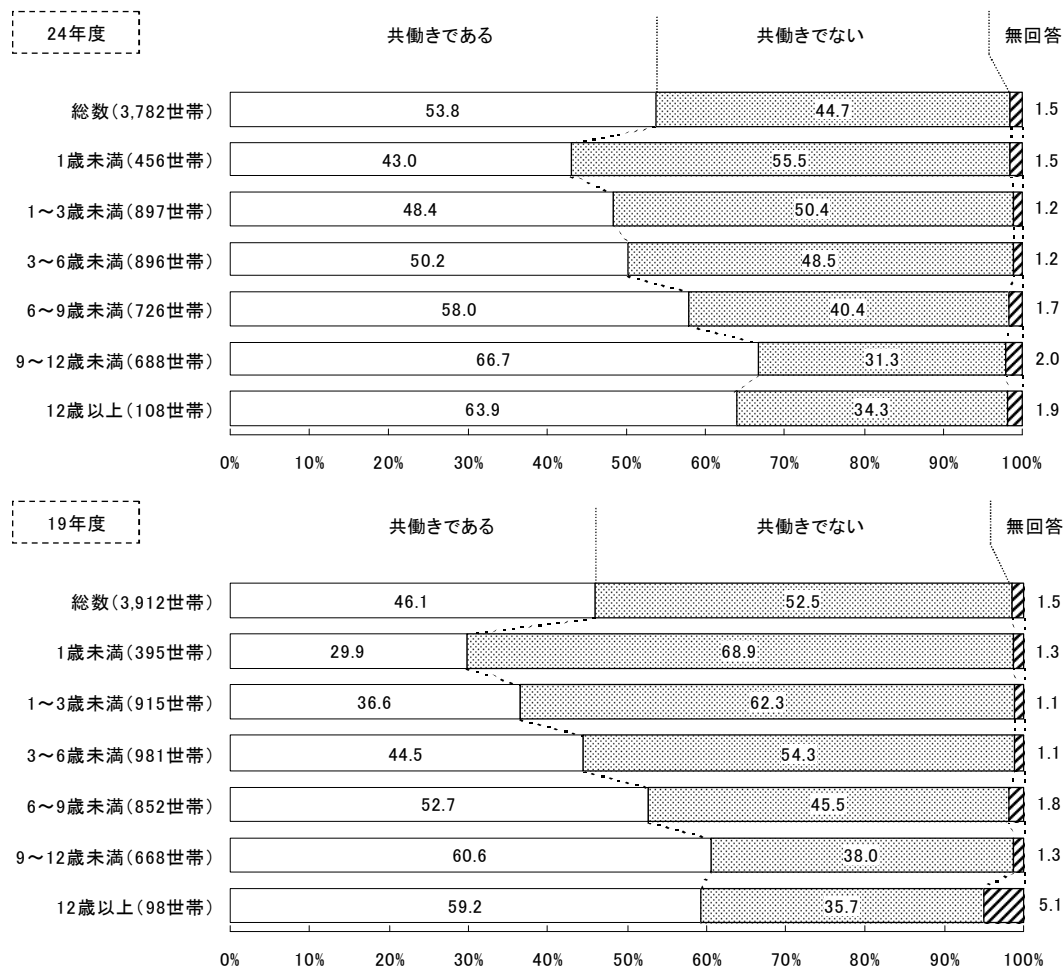
図 I-1-12 共働きの状況－19年度調査との比較



(2) 共働きの状況－1番下の子供の年齢別

両親のいる世帯の共働きの状況を1番下の子供の年齢別にみると、「共働きである」割合は、1番下の子供の年齢が1歳未満で43.0%と、19年度調査（29.9%）に比べて13.1ポイント増加している。（図I-1-13 本文22p）

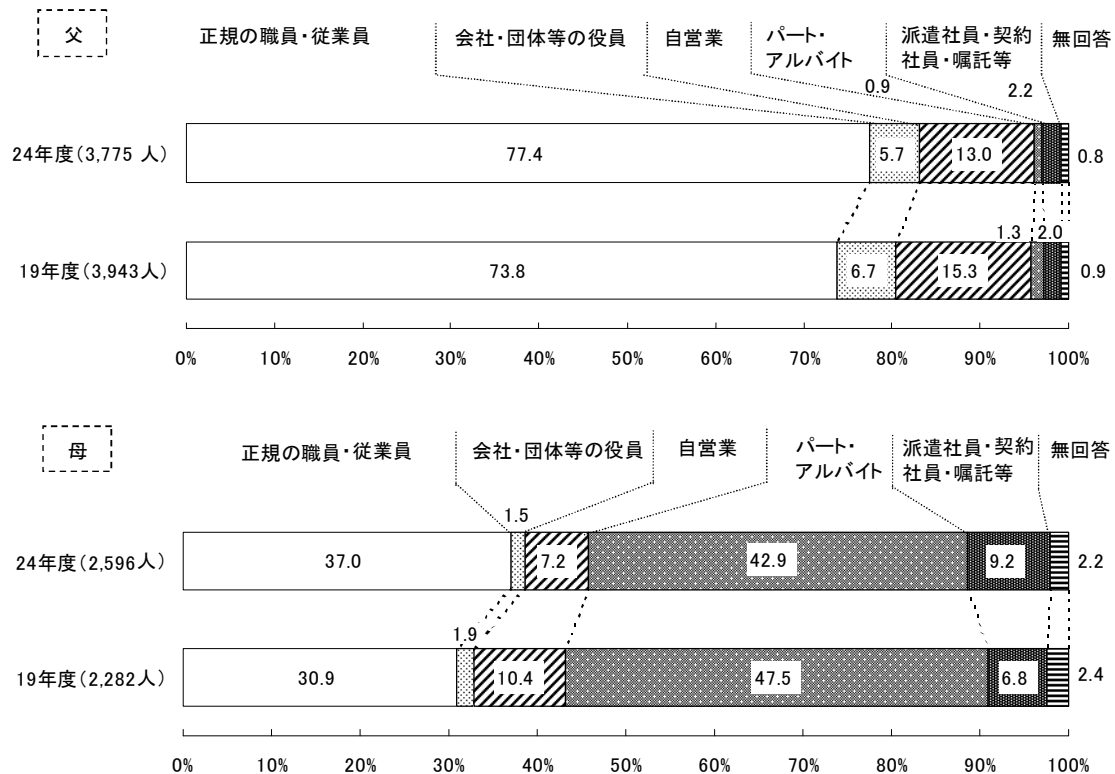
図I-1-13 共働きの状況－1番下の子供の年齢別



(3) 従業上の地位－19年度調査との比較

従業上の地位をみると、父親は「正規の職員・従業員」の割合が最も高く 77.4%、母親は「パート・アルバイト」の割合が最も高く 42.9%となっている。また、母親は「正規の職員・従業員」の割合が 37.0%と、19年度調査（30.9%）に比べて 6.1 ポイント増加している。（図 I-1-14 本文 23p）

図 I-1-14 従業上の地位－19年度調査との比較

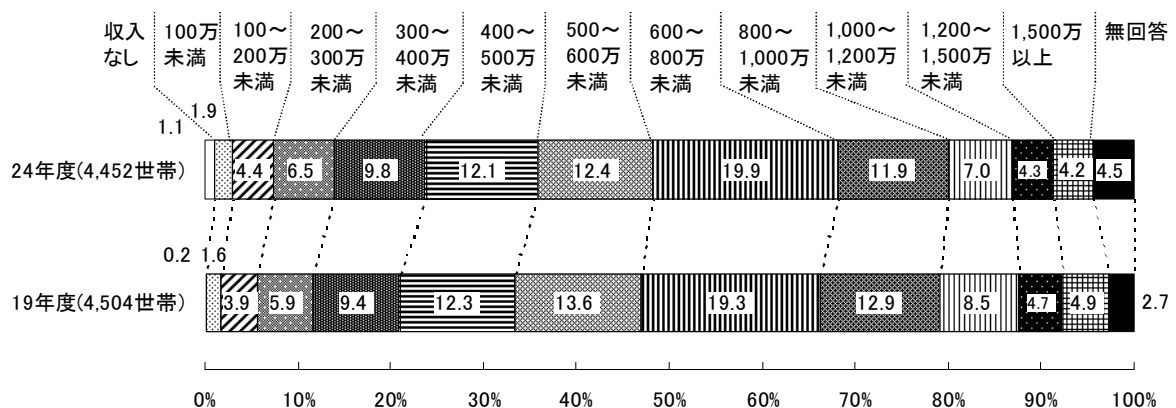


6 世帯収入の状況

(1) 世帯の年間収入－19年度調査との比較

世帯の年間収入についてみると、「600～800 万円未満」の割合が最も高く 19.9%、次いで「500～600 万円未満」12.4%、「400～500 万円未満」12.1%と続いている。（図 I-1-21 本文 31p）

図 I-1-21 世帯収入の状況－19年度調査との比較



(2) 世帯の年間収入－世帯類型(母子・父子世帯)別

世帯の年間収入を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯では「600～800万円未満」の割合が22.3%と最も高くなっている。ひとり親世帯では「100～200万円未満」の割合が22.1%と最も高くなっている。（表I-1-6 本文32p）

表I-1-6 世帯の年間収入－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総 数	収 入 な し	1 0 0 0 万 円 未 満	1 0 0 0 5 2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 0 5 3 0 0 万 円 未 満	3 0 0 0 5 4 0 0 万 円 未 満	4 0 0 0 5 5 0 0 万 円 未 満	5 0 0 0 5 6 0 0 万 円 未 満	6 0 0 0 5 8 0 0 万 円 未 満	8 1 0 0 5 0 0 万 円 未 満	1 1 0 0 5 2 0 0 万 円 未 満	1 1 0 0 5 2 0 0 万 円 未 満	1 5 0 0 5 0 0 万 円 以 上	無 回 答
総数	100.0 (4,452)	1.1	1.9	4.4	6.5	9.8	12.1	12.4	19.9	11.9	7.0	4.3	4.2	4.5
両親世帯	100.0 (3,782)	0.2	0.3	1.3	4.2	9.8	12.9	13.4	22.3	13.4	8.0	4.9	4.9	4.4
ひとり親世帯	100.0 (670)	6.0	11.0	22.1	20.0	9.7	7.6	6.6	6.7	3.0	0.9	0.7	0.4	5.2
母子世帯	100.0 (607)	6.1	12.2	23.6	21.6	9.2	7.6	5.8	5.8	1.5	0.7	0.5	0.3	5.3
母子のみの世帯	100.0 (499)	7.0	13.2	25.1	21.2	8.4	7.4	4.4	5.0	1.8	0.4	0.4	-	5.6
その他	100.0 (106)	1.9	7.5	17.0	23.6	13.2	8.5	10.4	9.4	-	1.9	0.9	1.9	3.8
父子世帯	100.0 (63)	4.8	-	7.9	4.8	14.3	7.9	14.3	15.9	17.5	3.2	3.2	1.6	4.8
父子のみの世帯	100.0 (44)	4.5	-	4.5	2.3	13.6	9.1	15.9	11.4	20.5	4.5	4.5	2.3	6.8
その他	100.0 (19)	5.3	-	15.8	10.5	15.8	5.3	10.5	26.3	10.5	-	-	-	-

(3) 主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

主な世帯収入の種類を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯、ひとり親世帯とも「賃金・給料」の割合が最も高く、それぞれ90.6%、73.0%となっている。（表I-1-9 本文34p）

表I-1-9 主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総 数	賃 金 ・ 給 料	事 業 所 得	配 当 ・ 家 賃 ・ 地 代 ・ 利 子 ・	仕 送 り	養 育 費 ・ 慰 謝 料	年 金 ・ 恩 給	生 活 保 護	給 付 金	そ の 他 の 社 会 保 障	雇 用 保 険	そ の 他 の 収 入	無 回 答
総数	100.0 (4,452)	87.9	4.9	0.1	0.4	0.4	0.5	1.3	0.4	0.1	0.1	0.3	3.5
両親世帯	100.0 (3,782)	90.6	5.3	0.0	0.5	-	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	3.1
ひとり親世帯	100.0 (670)	73.0	2.7	0.3	-	2.5	3.3	8.1	2.5	0.6	1.5	5.5	
母子世帯	100.0 (607)	72.5	2.0	0.3	-	2.8	3.5	8.6	2.8	0.5	1.6	5.4	
母子のみの世帯	100.0 (499)	71.9	2.0	-	-	3.0	3.0	10.0	2.6	0.4	1.8	5.2	
その他	100.0 (106)	74.5	1.9	1.9	-	1.9	5.7	1.9	3.8	0.9	0.9	6.6	
父子世帯	100.0 (63)	77.8	9.5	-	-	-	1.6	3.2	-	1.6	-	6.3	
父子のみの世帯	100.0 (44)	75.0	9.1	-	-	-	2.3	4.5	-	-	-	9.1	
その他	100.0 (19)	84.2	10.5	-	-	-	-	-	-	5.3	-	-	

7 自分・配偶者以外が日中の世話をしている子供（2,008人）の概況

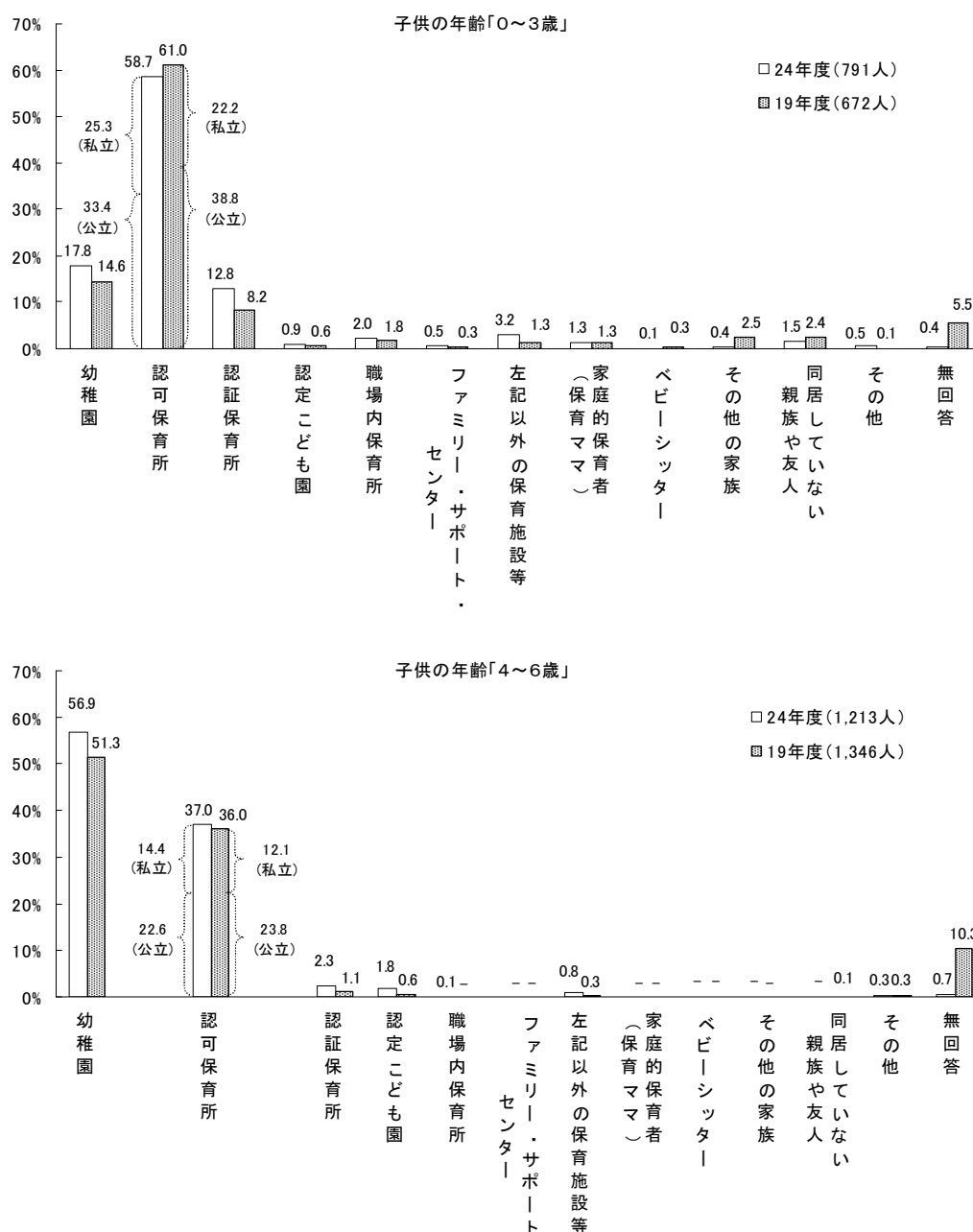
(1) 日中の子供の預け先（主なところ）－19年度調査との比較

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（2,008人）の預け先（主なところ）を、子供の年齢別（「0～3歳」、「4～6歳」）にみると、子供の年齢が「0～3歳」では、「認可保育所（公立）」の割合が最も高く33.4%となっている。

子供の年齢が「4～6歳」では、「幼稚園」の割合が56.9%で最も高く、19年度調査（51.3%）に比べて5.6ポイント増加している。（図I-2-7 本文42p）

問 日中お子さんを見てもらっているところはどこですか。

図I-2-7 日中の子供の預け先（主なところ）－19年度調査との比較



（注）24年度の合計が2,008人（通園させたり預けたりしている就学前の子供人数）にならないのは、年齢不明の子供が4人いるためである。同様に、19年度の合計が2,021人（自分・配偶者以外が世話をしている就学前の子供人数）にならないのは、年齢不明の子供が3人いるためである。

(2) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

－日中の子供の預け先（主なところ）別

子供の預け先を選ぶ際に重視することについて、幼稚園では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く 43.9%、次いで「丁寧に子供を見てくれる」が 42.4%と続いている。

一方、認証保育所では「希望する時間まで子供を預かってくれる」が 41.1%と最も高く、認可保育所（公立 35.3%、私立 33.5%）に比べて高くなっている。また、「教育・保育が充実している」（32.6%）についても、認可保育所（公立 19.5%、私立 22.9%）に比べて高くなっている。（表 I-2-1 本文 41p）

問 お子さんの預け先を選ぶ際に重視することは何ですか。

表 I-2-1 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

－日中子供を見てもらっているところ（主なところ）別

	総 数	希 望 す る 時 間 ま で 子 供 を 預 か つ て く れ る	夜 間 や 休 日 で も 利 用 で き る	子 供 が 病 気 の と き で も 利 用 で き る	教 育 ・ 保 育 が 充 実 し て い る	高 く な い 費 用 で 利 用 で き る	柔 軟 な 対 応 を し て く れ る	先 生 や 保 育 者 の 教 育 の 方 針 が 養 育 者 と 一 致 し て い る	先 生 や 保 育 者 と 養 育 者 と の 交 流 が 盛 ん で あ る	給 食 の 内 容 が 良 い	丁 寧 に 子 供 を 見 て く れ る	通 う の に 便 利 な 場 所 に あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (2,008)	28.2	4.0	7.3	27.5	28.0	15.5	17.7	6.3	4.6	38.3	44.0	1.2	1.6	14.3
幼稚園	100.0 (834)	18.8	2.8	4.1	34.3	30.6	15.1	27.5	7.6	3.5	<u>42.4</u>	<u>43.9</u>	1.1	2.4	9.6
認可保育所(公立)	100.0 (538)	<u>35.3</u>	4.5	9.9	<u>19.5</u>	28.1	12.8	7.8	5.4	5.4	34.8	46.3	1.3	0.9	19.1
認可保育所(私立)	100.0 (376)	<u>33.5</u>	5.6	9.6	<u>22.9</u>	19.9	18.9	8.2	6.6	6.4	37.8	43.9	1.9	1.3	18.4
認証保育所	100.0 (129)	<u>41.1</u>	3.1	10.1	<u>32.6</u>	31.0	19.4	20.9	3.9	6.2	31.8	37.2	0.8	0.8	13.2
認定こども園	100.0 (29)	37.9	3.4	6.9	34.5	44.8	13.8	13.8	－	－	37.9	58.6	3.4	－	6.9
職場内保育所	100.0 (17)	47.1	－	17.6	23.5	29.4	29.4	17.6	－	5.9	35.3	35.3	－	－	11.8
ファミリー・サポート・センター	100.0 (4)	－	－	－	－	75.0	－	50.0	25.0	－	－	100.0	－	－	－
上記以外の保育施設	100.0 (35)	28.6	11.4	11.4	31.4	25.7	11.4	28.6	8.6	2.9	40.0	37.1	－	5.7	5.7
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (10)	60.0	40.0	－	20.0	40.0	30.0	－	－	－	10.0	50.0	－	－	－
ベビーシッター	100.0 (1)	－	－	100.0	－	－	－	100.0	－	－	100.0	－	－	－	－
その他の家族	100.0 (3)	－	－	－	33.3	33.3	66.7	33.3	－	33.3	66.7	33.3	－	－	－
同居していない親族や友人	100.0 (12)	16.7	－	－	8.3	25.0	8.3	16.7	－	－	33.3	25.0	－	－	41.7

（注）総数は、平日の日中、通園させたり預けたりしている子供の数 2,008 人である。

8 平日の日中、子供を通園させたり預けたりしていない世帯の状況

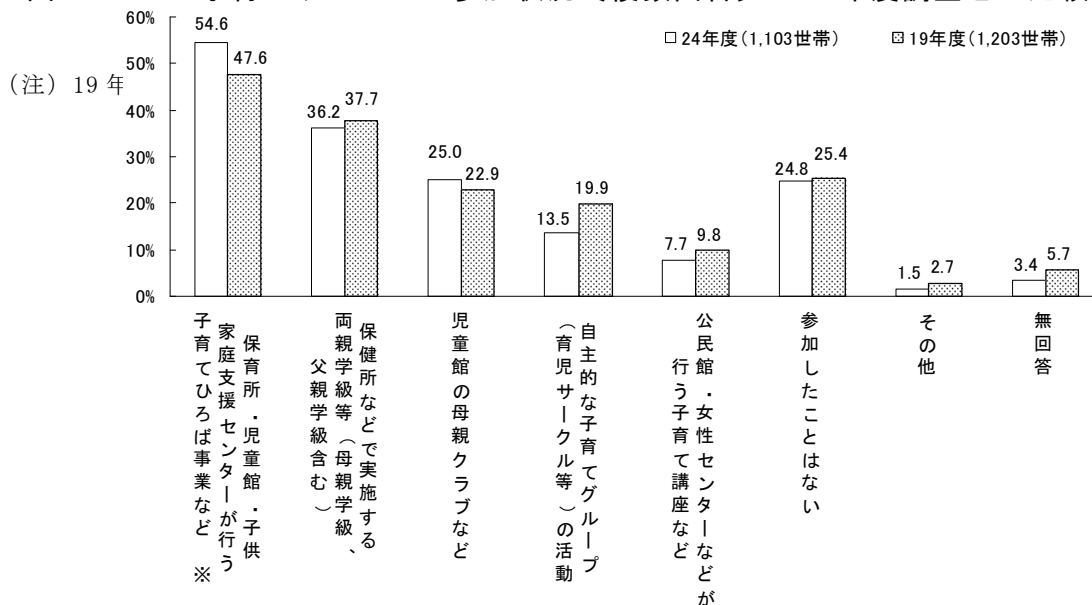
(1) 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－19年度調査との比較

保育所・児童館が行う子育てひろば事業に参加したことがある割合は5割超

子育てサービスの参加状況を聞いたところ、「保育所・児童館・子供家庭支援センターが行う子育てひろば事業など」の割合が54.6%と最も高く、19年度調査（47.6%）と比べて7.0ポイント上昇している。（図I-2-13 本文53p）

問 次のうちで、参加したことがあるものはありますか。

図I-2-13 子育てサービスの参加状況〔複数回答〕－19年度調査との比較

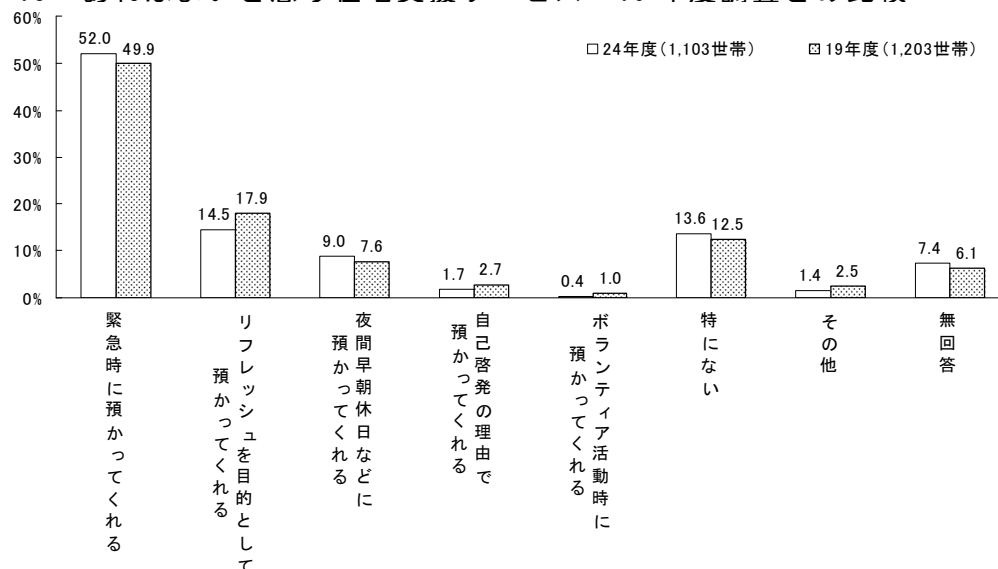


(2) あればよいと思う在宅支援サービス－19年度調査との比較

どのような在宅支援サービスがあればよいと思うか聞いたところ、「緊急時に預かってくれる」の割合が最も高く52.0%、次いで「リフレッシュを目的として預かってくれる」（14.5%）となっている。（図I-2-15 本文56p）

問 在宅で子育てを行う家庭に対し、どのようなサービスがあればいいと思いますか。

図I-2-15 あればよいと思う在宅支援サービス－19年度調査との比較



9 小学生の子供がいる 2,354 世帯の小学生の子供 3,045 人の概況

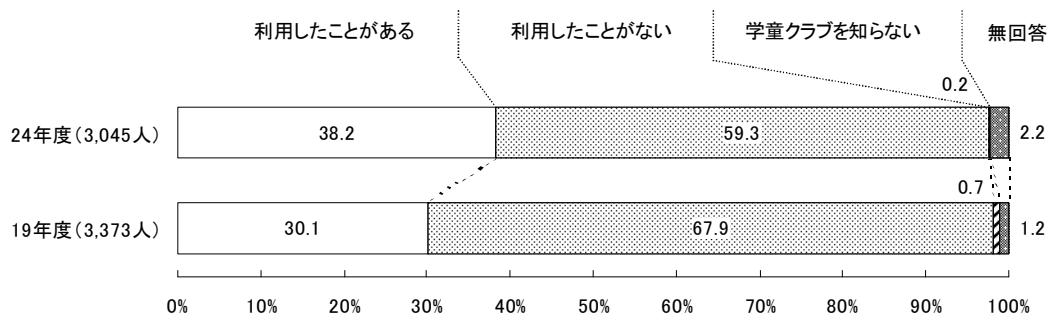
(1) 学童クラブの利用状況－19 年度調査との比較

「利用したことがある」割合が増加し、4 割

学童クラブの利用状況について聞いたところ、「利用したことがある」割合が 38.2%で、19 年度調査（30.1%）に比べて 8.1 ポイント増加している。（図 I-3-1 本文 57p）

問 お子さんは、学童クラブを利用したことがありますか。

図 I-3-1 学童クラブの利用状況－19 年度調査との比較



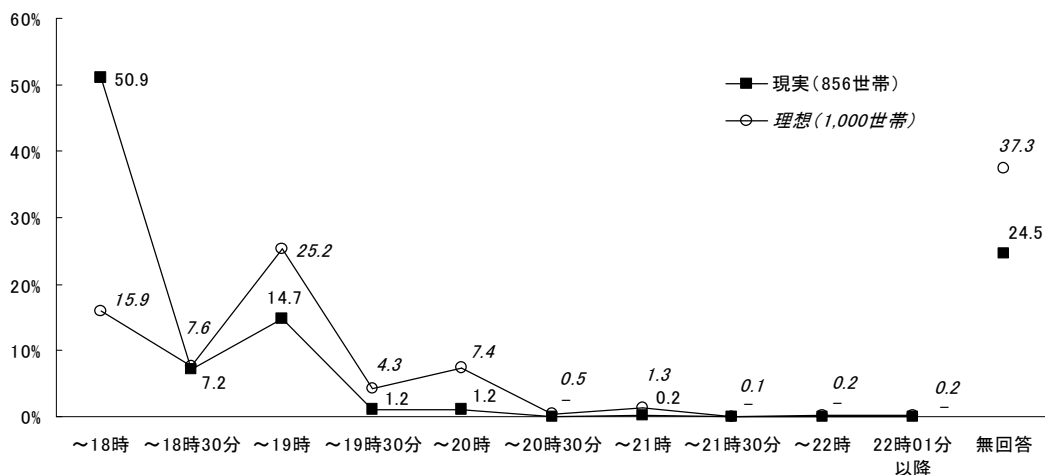
(2) 学童クラブの終了時間－理想と現実

現実の終了時間は「～18 時」の割合が最も高いのに対し、理想の終了時間は「18 時 30 分～19 時」の割合が最も高い

学童クラブの対象学年の子供がいる 1,585 世帯に、現在利用している学童クラブ、又は今後利用しようと思っている学童クラブが何時まで開いているか聞いたところ、「～18 時」の割合が最も高く 50.9%となっている。一方、何時まで開いてほしいか聞いたところ、「～19 時」の割合が最も高く 25.2%となっている。（図 I-3-7 本文 61p）

問 現在利用している学童クラブ、又は今後利用しようと思っている学童クラブは何時まで開いていますか。また、学童クラブは何時まで開いてほしいと思いますか。

図 I-3-7 学童クラブの終了時間－理想と現実



(注) 総数は、「学童クラブを利用するつもりはない」と回答した世帯を除いた数である。

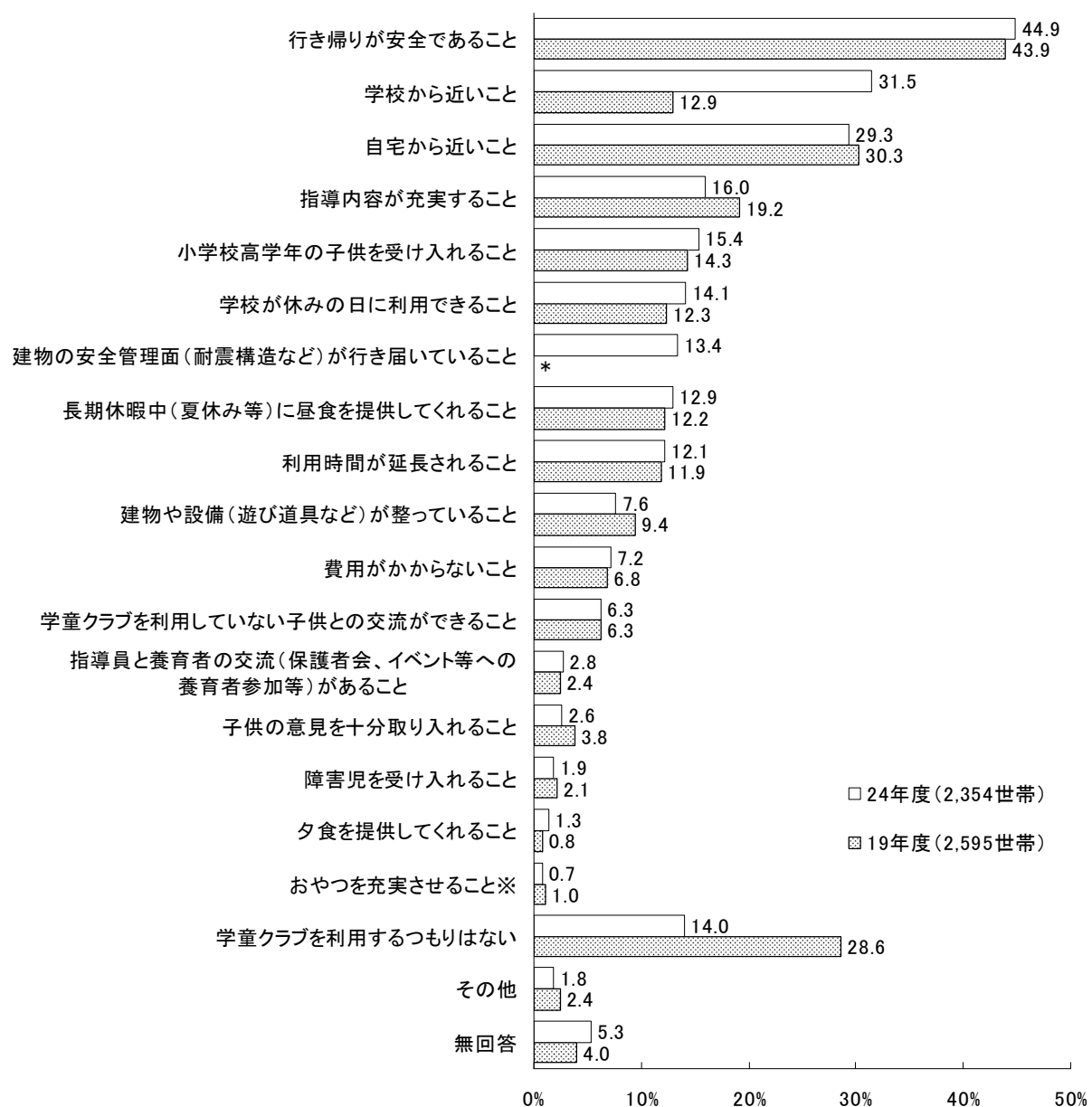
(3) 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－19年度調査との比較

学校クラブを利用するにあたって望むことは「行き帰りが安全であること」が4割

小学生の子供がいる2,354世帯に、学童クラブを利用していて、又は今後利用する場合に望むことを聞いたところ、「行き帰りが安全であること」の割合が最も高く44.9%となっている。次いで「学校から近いこと」(31.5%)の割合が高く、19年度調査(12.9%)に比べて18.6ポイント増加している。(図I-3-9 本文63p)

問 学童クラブを利用していて、又は今後利用する場合に、望むことは何ですか。

図I-3-9 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－19年度調査との比較



(注) * は19年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

(注) ※は19年度調査では、「おやつが充実すること」としていた。

第2部 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

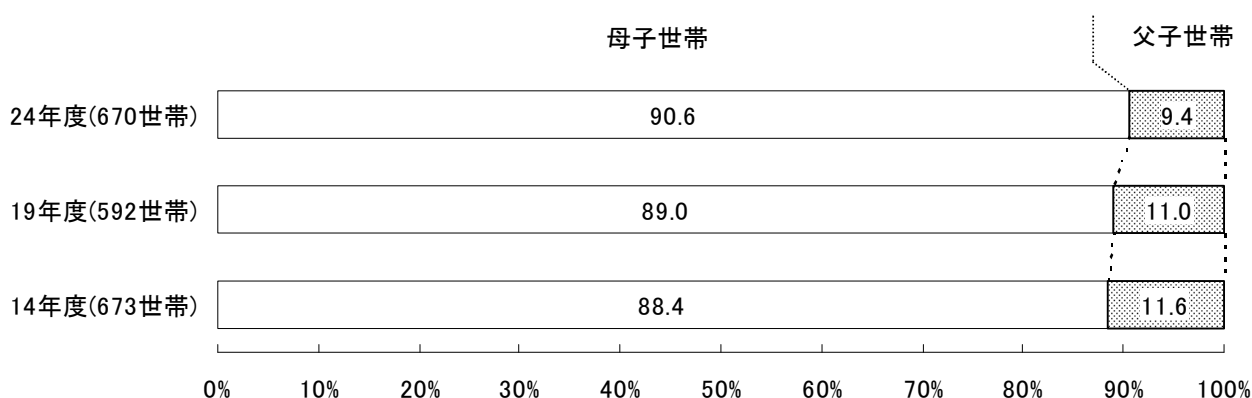
20歳未満の子供を養育するひとり親世帯 670 世帯の概況並びにその子供 1,101 人の概況

1 世帯の状況

(1) 世帯類型－過去調査との比較

調査対象世帯の世帯類型（母子・父子世帯）をみると、「母子世帯」が 90.6%で、「父子世帯」が 9.4%である。（図Ⅱ-1-1 本文 67p）

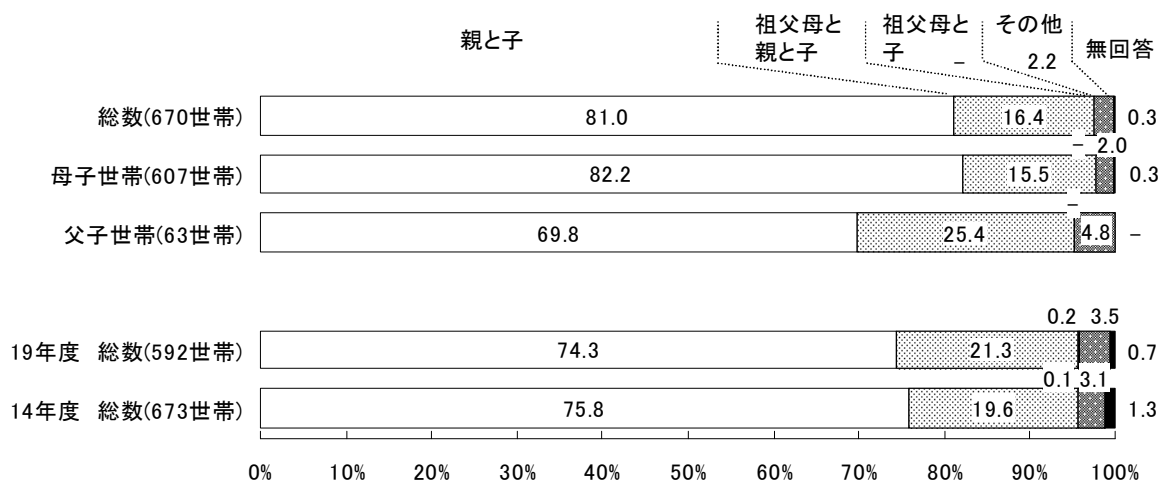
図Ⅱ-1-1 世帯類型－過去調査との比較



(2) 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

家族類型をみると、「親と子」の割合が 81.0%で、19年度調査（74.3%）に比べて 6.7ポイント増加している。母子世帯では、「親と子」の割合が、82.2%となっている。（図Ⅱ-1-2 本文 67p）

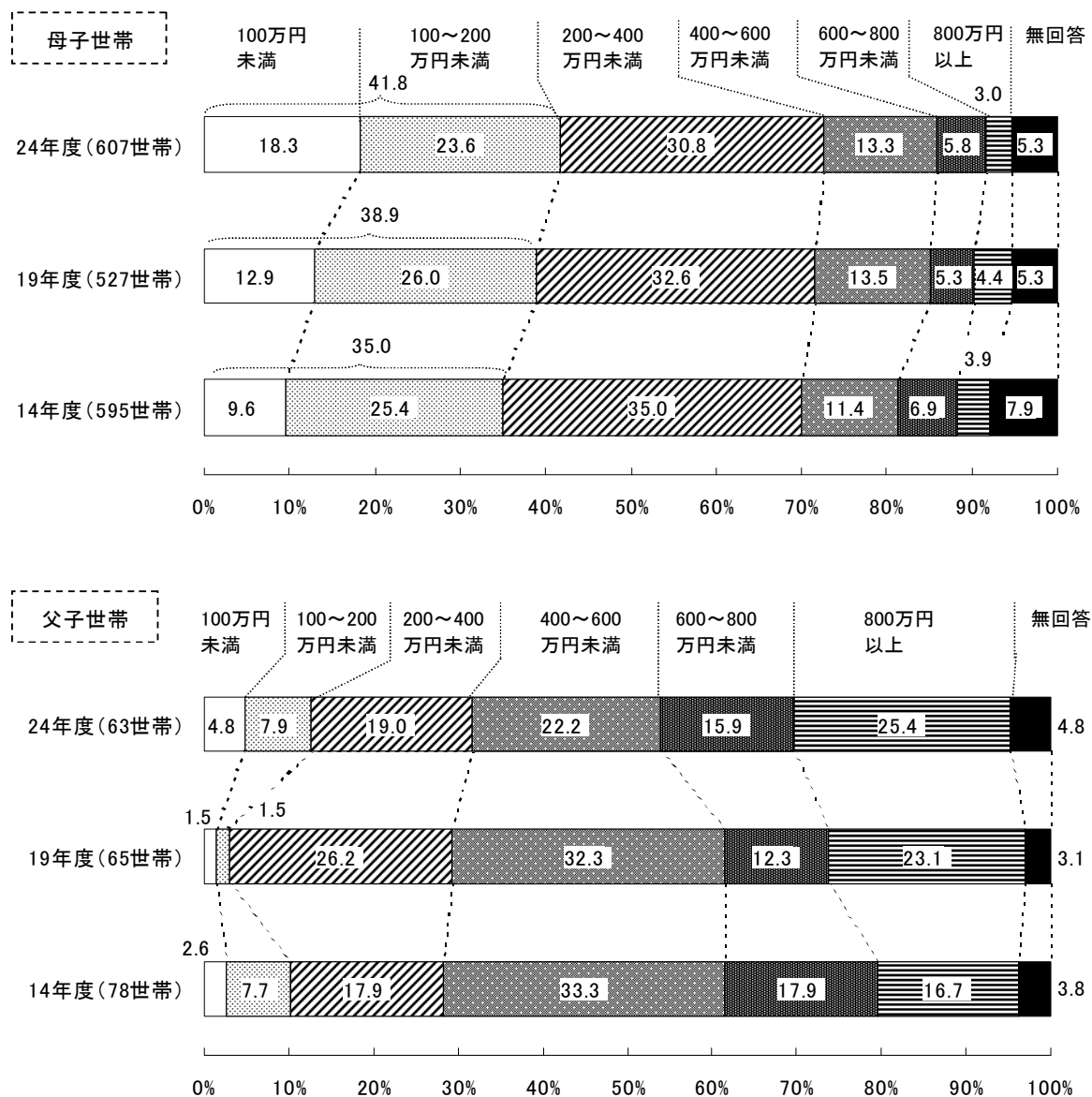
図Ⅱ-1-2 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較



2 世帯の年間収入－過去調査との比較

世帯の年間収入を過去調査と比較すると、母子世帯では、「100万円未満」の割合が18.3%で、19年度調査（12.9%）と比較して5.4ポイント増加している。また、「100万円未満」と「100～200万円未満」をあわせた200万円未満の割合も年々増加しており、24年度では41.8%と4割を超えている。（図Ⅱ-1-10 本文72p）

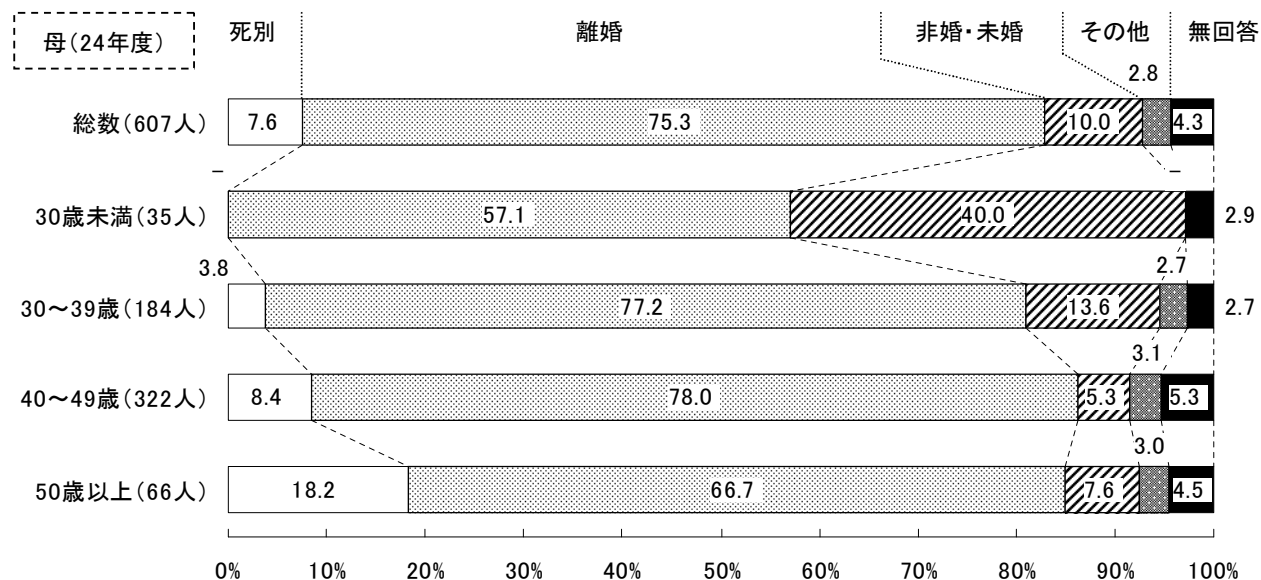
図Ⅱ-1-10 世帯の年間収入－過去調査との比較



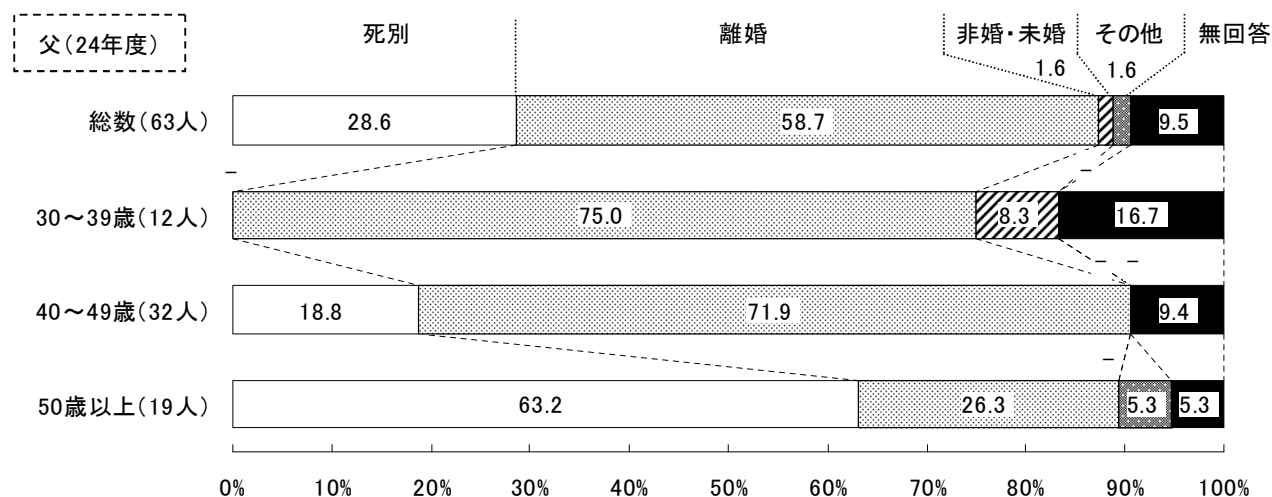
3 ひとり親世帯になった理由－父母の性・年齢階級別

ひとり親になった理由を父母の性・年齢階級別にみると、父母ともに、「離婚」による割合が最も高く、父親が58.7%、母親が75.3%となっている。また、「死別」による割合は、父親が28.6%であるのに対し、母親は7.6%となっている。(図Ⅱ-2-5、図Ⅱ-2-6 本文78、79p)

図Ⅱ-2-5 ひとり親世帯になった理由（母）－母の性・年齢階級別



図Ⅱ-2-6 ひとり親世帯になった理由（父）－父の性・年齢階級別

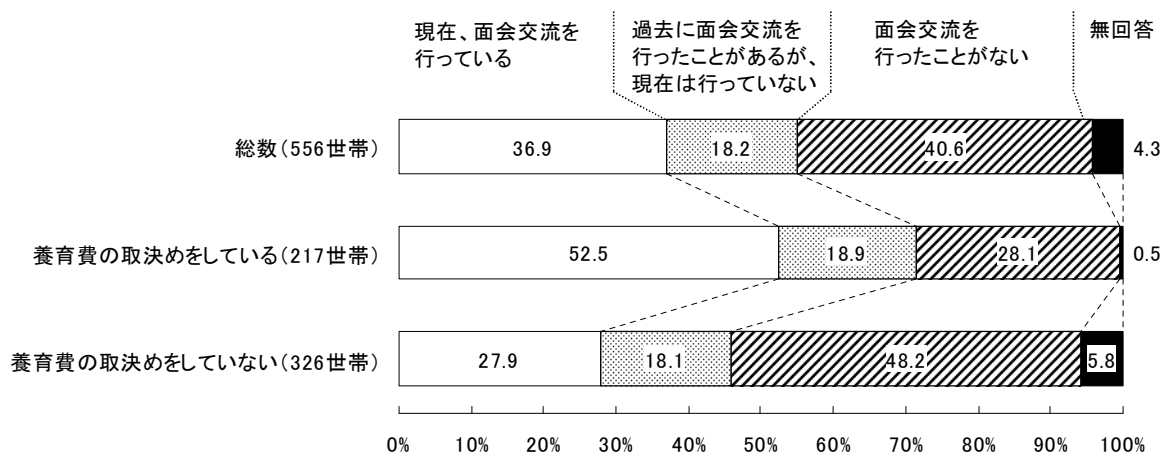


(注) 父親「30歳未満」は、該当なしのため省略した。

4 面会交流の有無－養育費取決めの有無別

面会交流の有無を養育費取決めの有無別にみると、「現在、面会交流を行っている」割合は、「養育費の取決めをしている」場合が52.5%で、「養育費の取決めをしていない」場合（27.9%）に比べて24.6ポイント高くなっている。（図Ⅱ-3-9 本文92p）

図Ⅱ-3-9 面会交流の有無－養育費取決めの有無別



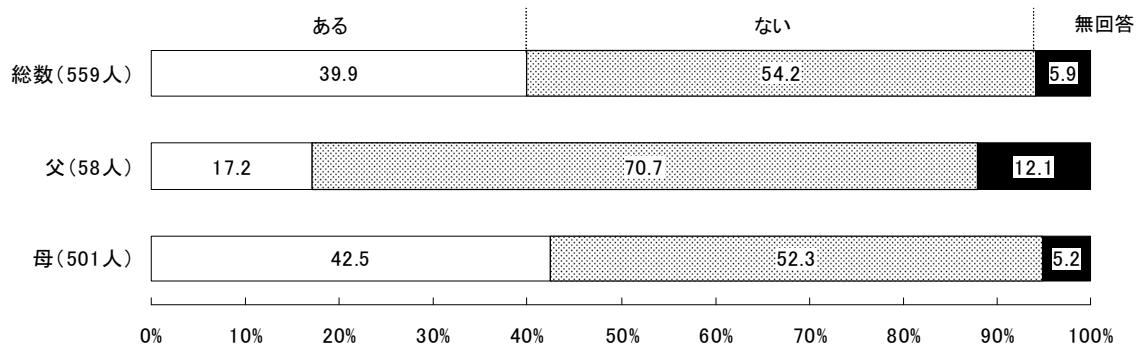
5 転職希望

(1) 転職の希望

現在仕事をしている559人に転職をしたいか聞いたところ、転職の希望が「ある」の割合が39.9%と、約4割となっている。父母別にみると、「ある」の割合は、父親が17.2%、母親が42.5%となっている。（図Ⅱ-5-5 本文100p）

問 あなたは、転職する希望がありますか。

図Ⅱ-5-5 転職の希望



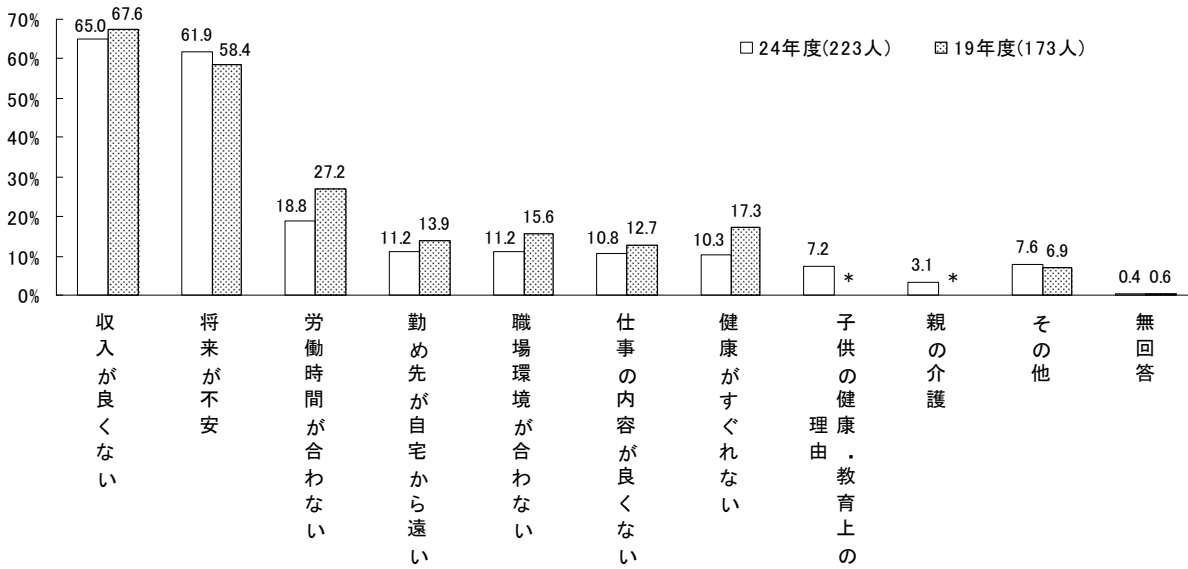
(注) 総数は、現在、働いていると答えた数で、職場に籍は置いているが、産休・育児休業中や病気等で休んでいる人は除く。

(2) 仕事を変えたい理由〔複数回答〕－19年度調査との比較

転職の希望が「ある」と回答した 223 人に、仕事を変えたい理由を聞いたところ、「収入が良くない」の割合が最も高く 65.0%、次いで「将来が不安」の 61.9%で、それぞれ 6 割を超えている。また、「労働時間が合わない」の割合は、19 年度に比べて、8.4 ポイント低くなっている。(19 年度 27.2%、24 年度 18.8%) (図Ⅱ-5-7 本文 101p)

問 仕事を変えたい理由は何ですか。

図Ⅱ-5-7 仕事を変えたい理由〔複数回答〕－19年度調査との比較



(注) * は 19 年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

(3) 仕事を変えたい理由〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

仕事を変えたい理由を母親の従業上の地位別にみると、正規の職員・従業員とパート・アルバイトでは、「収入が良くない」の割合が最も高くなっている。(正規 64.3%、パート 70.6%)

派遣社員・契約社員・嘱託等では、「将来が不安」の割合が 63.6%と最も高くなっている。(表Ⅱ-5-1 本文 102p)

表Ⅱ-5-1 仕事を変えたい理由〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

	総数	収入が良くない	勤め先が自宅から遠い	健康がすぐれない	仕事の内容が良くない	職場環境が合わない	労働時間が合わない	将来が不安	理由子供の健康・教育上の	親の介護	その他	無回答
総数	100.0 (213)	66.2	11.7	10.3	10.8	10.8	19.7	61.5	7.0	3.3	8.0	0.5
自営業	100.0 (4)	50.0	-	-	-	-	-	75.0	25.0	-	25.0	-
正規の職員・従業員	100.0 (56)	64.3	17.9	14.3	21.4	19.6	26.8	46.4	7.1	8.9	7.1	-
パート・アルバイト	100.0 (119)	70.6	6.7	10.9	6.7	8.4	17.6	67.2	5.9	0.8	6.7	0.8
派遣社員・契約社員・嘱託等	100.0 (33)	54.5	21.2	3.0	9.1	6.1	18.2	63.6	9.1	3.0	12.1	-

(注) 父親は、転職希望者が 10 人のため省略した。

第3部 子育てに関する実態と意識

小学生までの子供を養育する世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯の子供の父親と母親（養育者を含む）7,827 人の概況

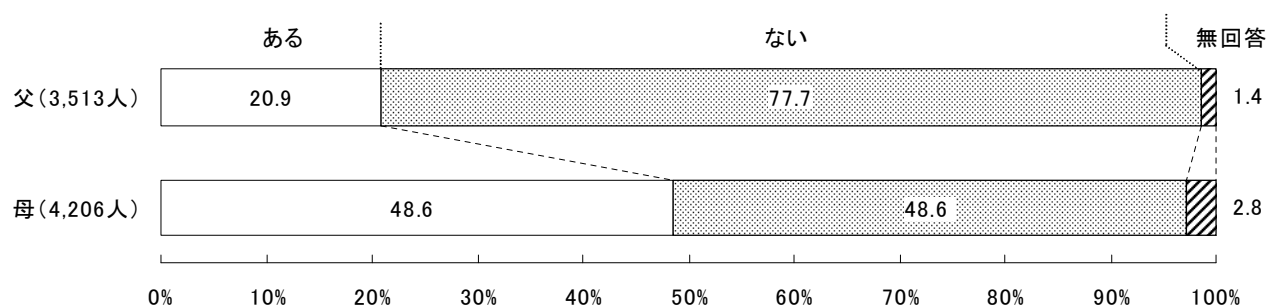
1 勤務時間の調整の有無

勤務時間の調整をしたことが「ある」割合は、父親 2 割、母親 5 割

「今まで働いたことはない」と回答した人と「無回答」の人を除いた 7,719 人のうち、子供が生まれた後、勤務時間の調整が必要だった（予定も含む。）のは、父親 20.9%、母親 48.6%である。（図Ⅲ-1-4 本文 112p）

問 あなたは、子育てを理由に、勤務時間の調整（短時間勤務、フレックス、勤務時間の繰上げ、繰下げ等）が必要だった経験がありますか。又は職場復帰後、調整が必要になる予定ですか。

図Ⅲ-1-4 勤務時間の調整の有無



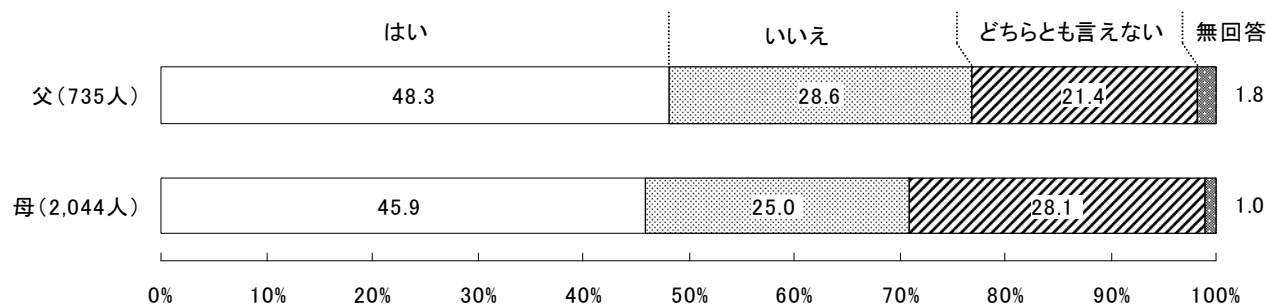
2 勤務時間の調整は十分か

「勤務時間は十分調整できた（できる）」割合は、父母ともに 5 割

「勤務時間の調整が必要だった（必要になる予定）」の 2,779 人に勤務時間の調整は十分にできた（できる）と思うか聞いたところ、父母ともに「はい」の割合が最も高く、父親 48.3%、母親 45.9%となっている。（図Ⅲ-1-6 本文 113p）

問 勤務時間は十分に調整できた（できる）と思いますか。

図Ⅲ-1-6 勤務時間の調整は十分か



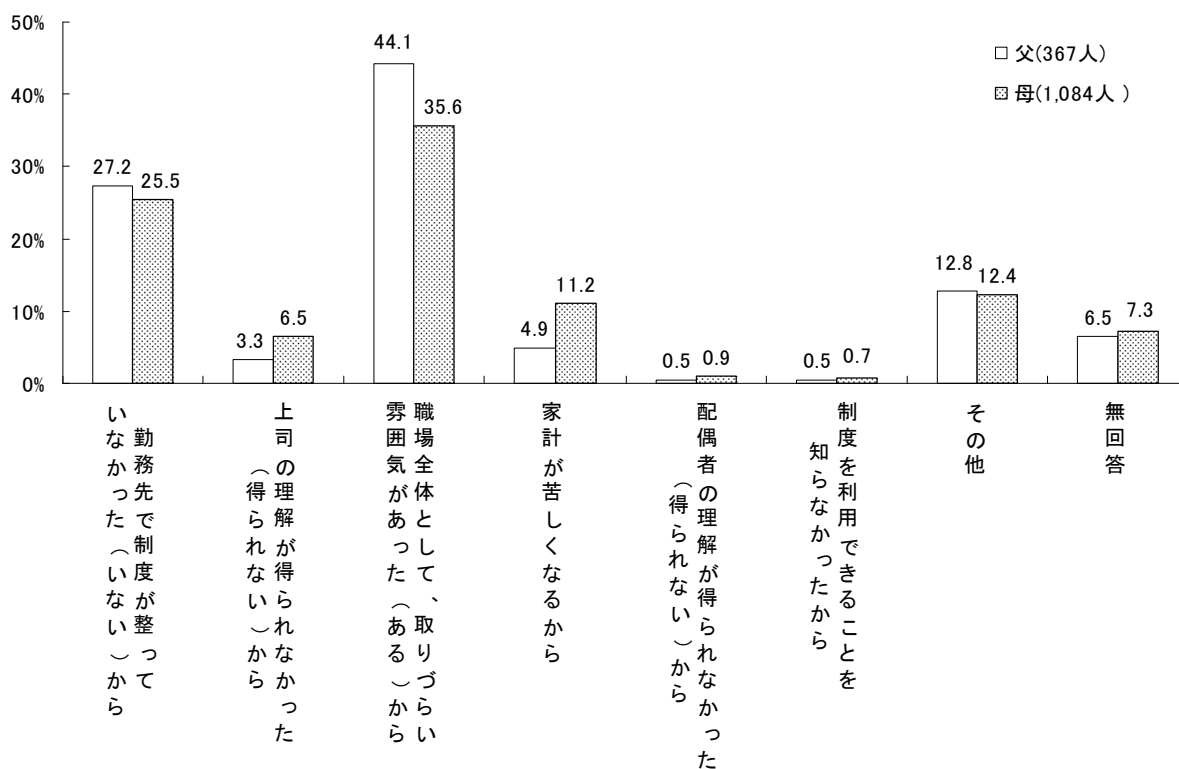
3 勤務時間の調整が十分にできなかった理由

十分に調整が「できなかった（できない）」理由は、父母ともに、「職場全体として取りづらい雰囲気があった（ある）から」の割合が最も高い

勤務時間の調整が必要だった（必要になる予定がある）が、十分に調整が「できなかった（できない）」又は「どちらとも言えない」と回答した 1,451 人に、その理由を聞いたところ、最も割合が高かったのは、父母ともに「職場全体として、取りづらい雰囲気があった（ある）から」の割合が最も高く（父親 44.1%、母親 35.6%）、次いで、「勤務先で制度が整っていなかった（いない）から」（父親 27.2%、母親 25.5%）が続いている。（図Ⅲ-1-7 本文 114p）

問 十分に調整できなかった（できない）理由は何ですか。

図Ⅲ-1-7 勤務時間の調整が十分にできなかった理由



4 仕事をやめた理由－母親の年齢階級別

母親が仕事をやめた理由は、いずれの年齢層でも「育児に専念したかったため」の割合が最も高い

仕事をやめた理由を母親の年齢階級別にみると、いずれの年齢層においても、「育児に専念したかったため」の割合が最も高くなっている（45 歳以上では、「結婚のため」と同じ割合）。（表Ⅲ-1-2 本文 116p）

表Ⅲ-1-2 仕事をやめた理由－母親の年齢階級別

	総 数	結 婚 の た め	育 児 に 専 念 し た か っ た た め	子 供 の 預 け 先 が な か っ た た め （ 遠 か っ た た め ）	家 事 を 続 け る こ と に つ い て、 家 族 の 理 解 が 得 ら れ な か っ た か ら	家 族 の 介 護 や 看 護 の た め	家 族 の 転 勤 や 通 勤 上 の 理 由 の た め	健 康 上 の 理 由	仕 事 が 自 分 に 向 か な か っ た か ら	合 わ な か っ た か ら （ 労 働 条 件 － 労 働 時 間 、 賃 金 等 － ）	勤 務 先 で 仕 事 と 子 育 て を 両 立 す る 制 度 （ 育 児 休 業 、 短 時 間 勤 務 等 ） が 整 っ て い な か っ た か ら	仕 事 と 子 育 て を 両 立 す る こ と に つ い て、 職 場 の 理 解 が 得 ら れ な か っ た か ら	仕 事 を 続 け る こ と の 意 義 を 感 じ な か っ た か ら	会 社 倒 産 や 人 事 整 理 な ど 会 社 の 都 合 か ら	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (1,650)	25.9	34.2	3.6	0.9	1.2	5.3	4.9	1.3	2.4	5.8	1.7	1.5	2.1	4.4	4.7
29歳以下	100.0 (149)	29.5	36.9	1.3	0.7	1.3	3.4	4.0	2.7	1.3	3.4	2.7	0.7	1.3	4.0	6.7
30～34歳	100.0 (369)	22.2	37.4	5.1	1.1	0.8	5.7	2.7	0.8	3.3	8.1	2.4	1.4	0.8	4.9	3.3
35～39歳	100.0 (517)	27.3	31.7	4.3	1.0	0.4	5.6	4.1	1.2	2.9	7.4	1.2	1.5	1.9	5.4	4.3
40～44歳	100.0 (423)	27.2	38.5	2.4	0.9	1.7	3.1	6.4	0.9	1.7	3.8	0.5	1.7	3.1	3.3	5.0
45～49歳	100.0 (160)	24.4	24.4	2.5	0.6	1.9	10.0	8.1	3.1	1.3	3.8	4.4	2.5	3.1	3.1	6.9
50歳以上	100.0 (32)	18.8	18.8	6.3	－	9.4	9.4	12.5	－	6.3	－	－	－	6.3	6.3	6.3

（注）父親は総数が 28 名のため省略した。

5 今後働くための条件〔複数回答〕－1番下の子供の年齢別

今後働くための条件は、1番下の子の年齢が1歳未満の母親で、「子供をどこかに預けられたら」の割合、5割

母親が今後働くための条件を1番下の子供の年齢別にみると、12歳未満では、いずれの年齢層において、「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高くなっている。また、1歳未満では、「子供をどこかに預けられたら」が48.2%と高くなっている。(表Ⅲ-1-5 本文 123p)

表Ⅲ-1-5 今後働くための条件〔複数回答〕－1番下の子供の年齢別

	総数	子供をどこかに預けられたら	末子が幼稚園に入園したら	末子が小学校に入学したら	子育てに手がからなくなったら	家族の理解が得られれば	短い時間でも働ける職場があれば	以前の勤務先に再雇用制度が導入されれば	家に近い職場があれば	自分の能力を活かせる職場があれば	希望する労働条件であれば	その他	無回答
母	100.0 (1462)	22.4	11.6	18.3	31.7	8.5	63.1	1.7	43.5	14.4	44.3	2.5	2.5
1歳未満	100.0 (218)	48.2	16.1	14.7	25.7	8.3	58.7	2.3	39.4	7.3	47.7	1.4	3.2
1～3歳未満	100.0 (405)	33.6	25.4	22.7	26.7	8.4	61.2	2.0	37.8	10.6	36.5	1.2	1.7
3～6歳未満	100.0 (369)	18.2	8.4	31.2	32.5	7.0	63.4	1.4	40.1	15.7	37.4	2.4	2.7
6～9歳未満	100.0 (233)	6.4	－	10.7	42.5	9.4	69.5	2.1	54.5	21.0	48.1	2.1	2.1
9～12歳未満	100.0 (172)	1.7	－	1.2	39.0	10.5	69.2	1.2	51.2	18.6	60.5	1.7	2.9
12歳以上	100.0 (58)	－	－	－	20.7	8.6	44.8	－	55.2	20.7	65.5	15.5	3.4
19年度	100.0 (1651)	20.5	10.9	17.6	38.6	10.5	60.7	1.7	44.2	17.1	47.8	1.9	1.5

(注) 父親は総数が24名のため省略した。

6 育児休業制度の利用の有無

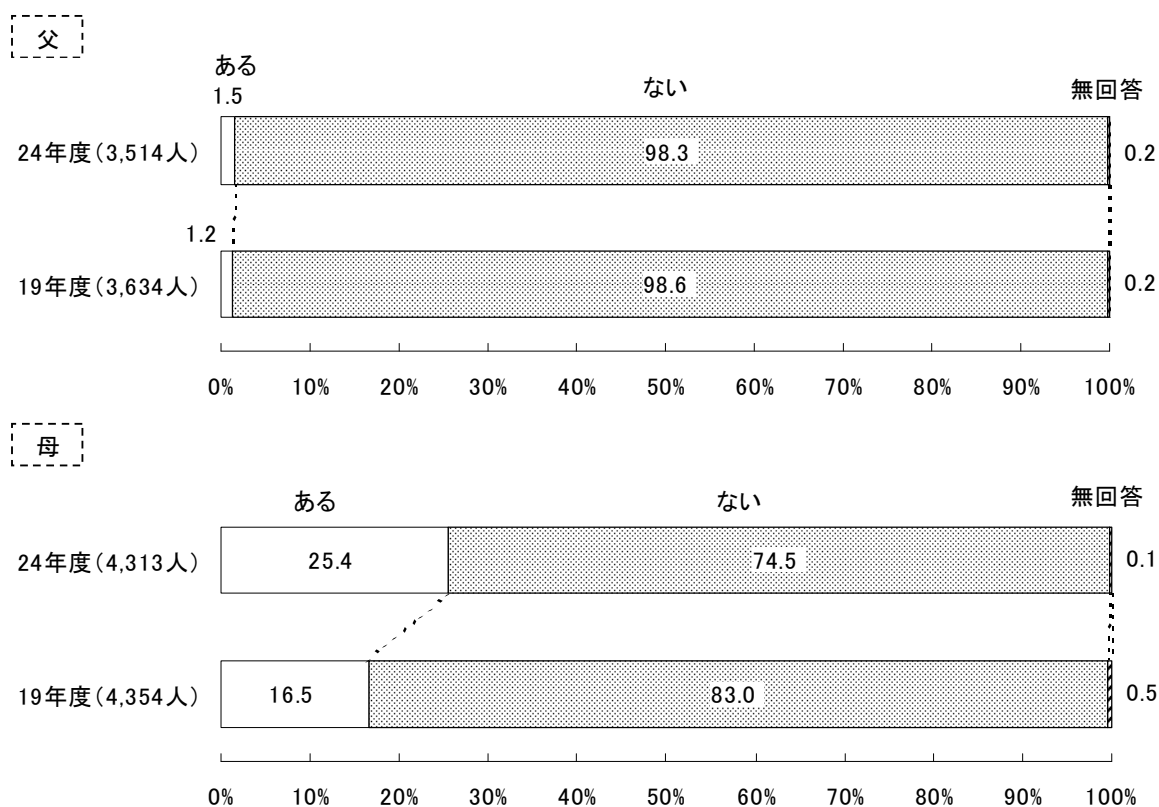
(1) 育児休業制度の利用の有無

育児休業制度を利用したことが「ある」割合は、父親 1.5%、母親 25.4%

育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合は、父親 1.5%、母親 25.4%となっている。(図Ⅲ-3-1 本文 131p)

問 あなたは、これまでに育児休業制度を利用したことがありますか。

図Ⅲ-3-1 育児休業制度の利用の有無

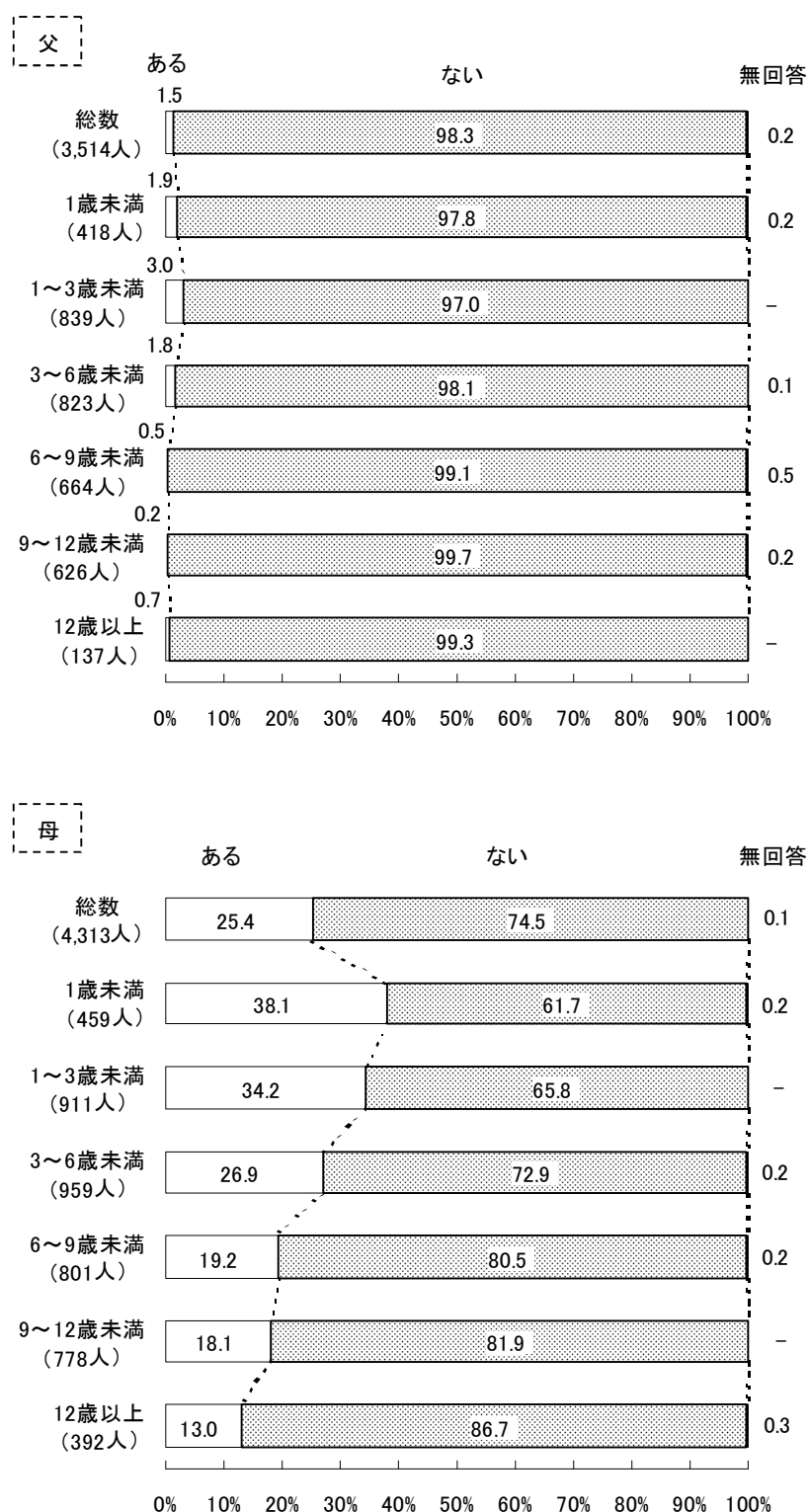


(2) 育児休業制度の利用の有無－1番下の子供の年齢別

1番下の子供が1歳未満である母親で、育児休業制度の利用したことが「ある」人は、4割

育児休業制度利用の有無を1番下の子供の年齢別にみると、母親は、子供の年齢が下がるにつれ、利用したことが「ある」の割合が上がっており、1番下の子供の年齢が「1歳未満」では、「ある」の割合が38.1%と約4割となっている。(図Ⅲ-3-2 本文132p)

図Ⅲ-3-2 育児休業制度の利用の有無－1番下の子供の年齢別



7 育児休業の取得期間(現実と理想)

(1) 母親の育児休業の取得期間(現実と理想)

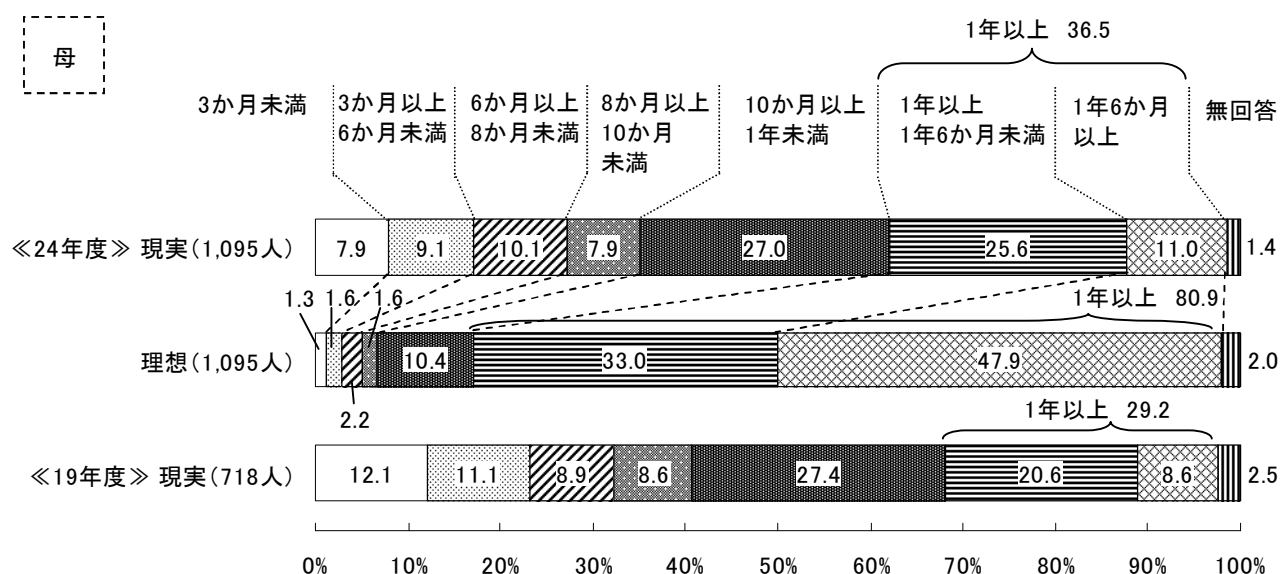
母親は、「1年以上」の育児休業取得について、【理想】8割超、【現実】4割弱

「育児休業制度を利用したことがある」と回答した母親(1,095人)についてみると、約半数(47.6%)の母親が「1年6か月以上」を理想としているのに対して、実際の取得期間(現実)は、「10か月以上1年未満」の割合が最も高く27.0%となっている。

また、8割超の母親が1年以上取得したい(理想)と考えているが、実際に1年以上取得したのは36.5%と4割に満たず、現実と理想の間にギャップがあることがわかる。

(図Ⅲ-3-3 本文 134p)

図Ⅲ-3-3 母親の育児休業の取得期間(現実と理想)



(2) 父親の育児休業の取得期間(現実と理想)

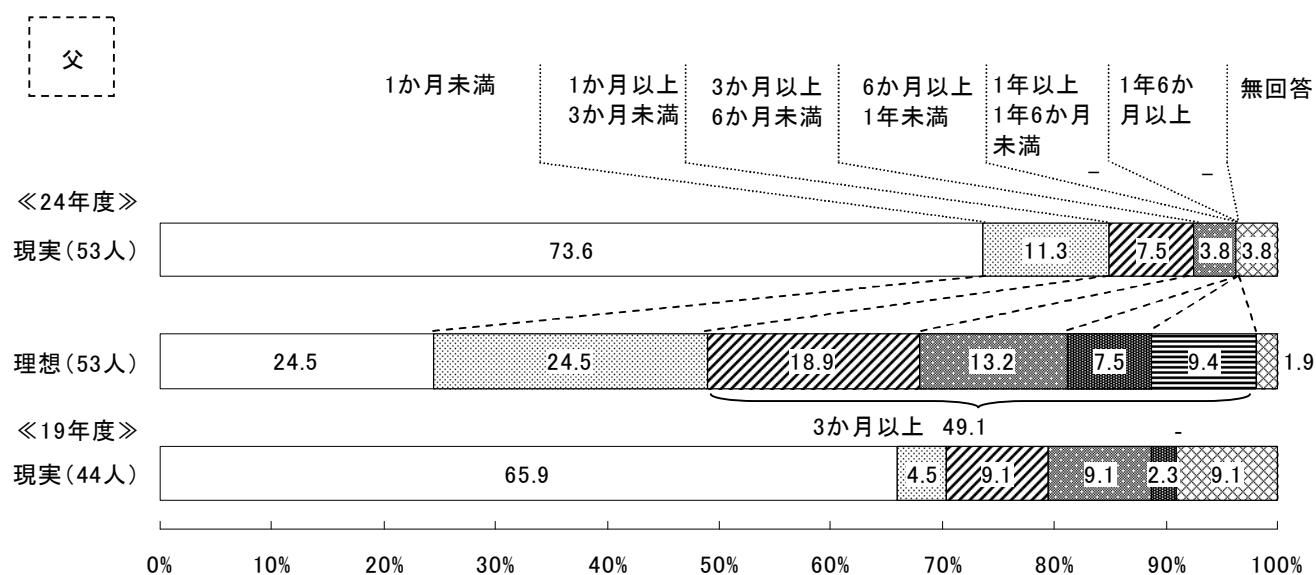
育児休業を取得した父親の7割が、取得期間は「1か月未満」

「育児休業制度を利用したことがある」と回答した父親(53人)についてみると、理想の取得期間は、「1か月未満」の割合が24.5%であるのに対して、実際の取得期間(現実)は、「1か月未満」が73.6%と最も高く、現実と理想の間にギャップがあることがわかる。

また、理想の取得期間を「3か月以上」とする割合は49.1%で、約半数を占めている。

(図Ⅲ-3-10 本文 143p)

図Ⅲ-3-10 父親の育児休業の取得期間(現実と理想)



8 育児休業を利用しなかった理由

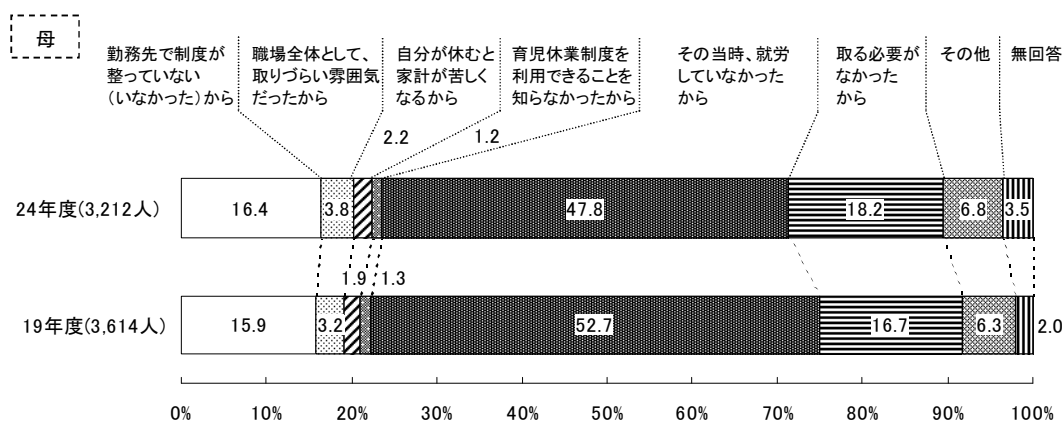
(1) 母親の育児休業を利用しなかった理由－19年度調査との比較

母親の育児休業を利用しなかった理由は、「その当時、就労していなかったから」の割合が最も高く、5割

育児休業を利用しなかった母親（3,212人）に、その理由を聞いたところ、「その当時就労していなかったから」の割合が最も高く 47.8%となっている。（図Ⅲ-3-9 本文141p）

問 育児休業を利用しなかったのはなぜですか。

図Ⅲ-3-9 母親の育児休業を利用しなかった理由－19年度調査との比較



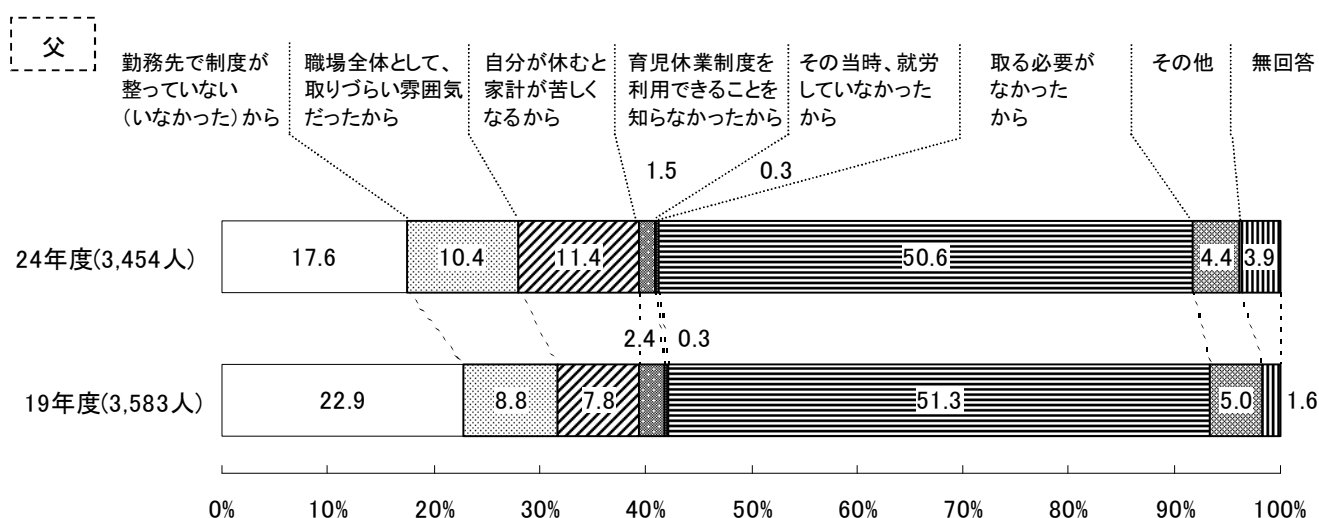
(注)「上司の理解が得られなかった」と「配偶者の理解が得られなかったから」はそれぞれ少数であったため、「その他」に含んでいる。

(2) 父親の育児休業を利用しなかった理由－19年度調査との比較

父親の育児休業を利用しなかった理由は、「取る必要がなかったから」5割

育児休業を利用しなかった父親（3,454人）に、その理由を聞いたところ、「取る必要がなかったから」の割合が最も高く50.6%となっている。また、19年度に比べて、「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」（19年度22.9%、24年度17.6%）、「育児休業制度を利用できることを知らなかったから」（19年度2.4%、24年度1.5%）がそれぞれ低くなっている。（図Ⅲ-3-12 本文145p）

図Ⅲ-3-12 父親の育児休業を利用しなかった理由－19年度調査との比較



(注)「上司の理解が得られなかった」と「配偶者の理解が得られなかったから」はそれぞれ少数であったため、「その他」に含んでいる。

9 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－世帯類型（母子・父子世帯）別

子育てをしやすいするために必要なものは、母子世帯は、両親世帯より「子育てに理解のある職場環境の整備」「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」が高い

子育てをしやすいするために必要なものを世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が 51.3%と最も高く、両親世帯（44.4%）と比べて 6.9 ポイント高くなっている。また、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合は 38.2%と、両親世帯（28.5%）と比べて 9.7 ポイント高くなっている。（表Ⅲ-5-3 本文 156p）

問 あなたは、出産や子育てをしやすいためには、何が必要だと思いますか。

表Ⅲ-5-3 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたり	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	夜間・休日保育サービス、子供を預けられるサービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	出産や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (7,827)	30.9	15.1	44.9	42.8	14.1	15.1	29.2	18.5	12.7	5.7	2.7	7.8	11.9	12.0	5.6	2.0	1.3
両親世帯	100.0 (7,165)	31.0	15.2	44.4	42.8	14.3	15.4	28.5	18.5	12.7	5.6	2.8	7.6	12.2	12.7	5.9	1.8	1.2
ひとり親世帯	100.0 (662)	29.6	13.9	49.8	42.3	12.5	12.1	36.9	18.7	12.4	6.6	2.0	9.5	8.6	4.8	2.4	3.3	2.6
母子世帯	100.0 (600)	30.2	14.5	51.3	42.0	13.0	12.8	38.2	18.0	11.5	7.0	1.8	9.3	9.5	4.5	2.2	2.5	2.5
父子世帯	100.0 (62)	24.2	8.1	35.5	45.2	8.1	4.8	24.2	25.8	21.0	3.2	3.2	11.3	-	8.1	4.8	11.3	3.2

10 子育てをしていて日ごろ感じること

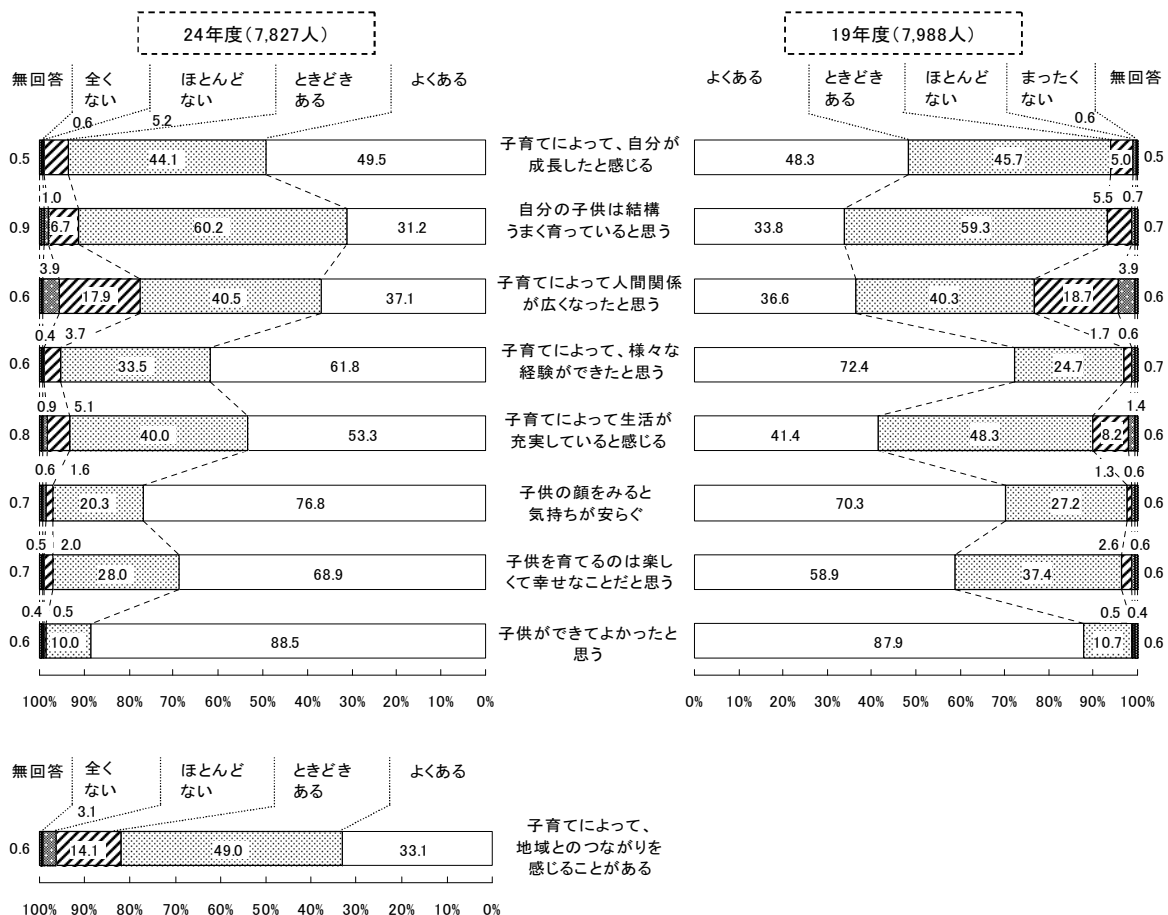
(1) 子育てをしていて日ごろ感じること－19年度調査との比較

「子育てによって生活が充実している」が10ポイント以上増

子育てをしていて日ごろ感じることを聞いたところ、良かったと思うことでは、「よくある」の割合は、「子育てによって生活が充実している（19年度41.4%、24年度53.3%）」が11.9ポイント、「子供を育てるのは楽しくて幸せなことだと思う（19年度58.9%、24年度68.9%）」が10.0ポイント、「子供の顔をみると気持ちが安らぐ（19年度70.3%、24年度76.8%）」が6.5ポイント、19年度に比べて、それぞれ増加している。（図Ⅲ-5-2 本文158p）

問 あなたは、次のようなことをお感じになることがありますか。

図Ⅲ-5-2 子育てをしていて日ごろ感じること（良かったと思うこと）－19年度調査との比較



(2) 子育てをしていて日ごろ感じること－父母別

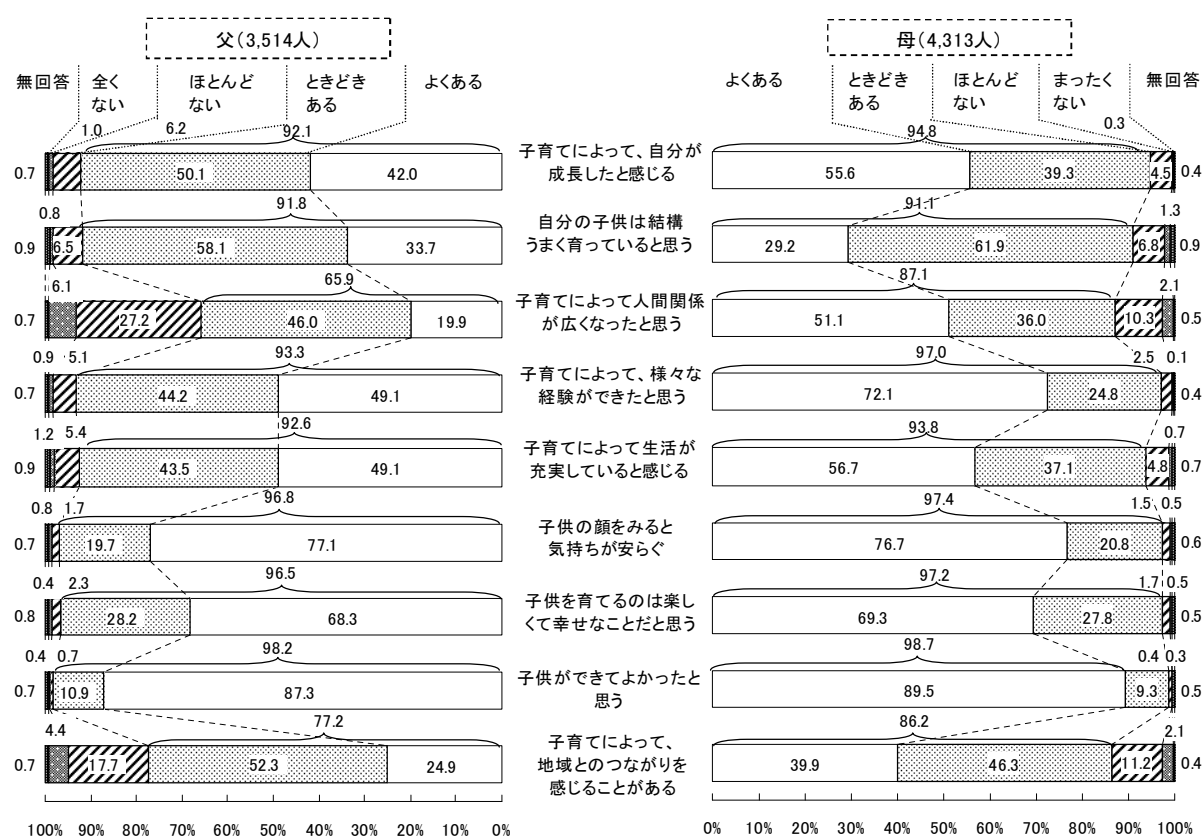
子育てをしていて負担に感じるものが「よくある」の割合は、すべての項目で、母親の方が父親より高くなっている。

子育てをしていて日ごろ感じることを父母別にみると、良かったと思うことでは、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、「子育てによって人間関係が広がった」（父親 65.9%、母親 87.1%）、「子育てによって、地域とのつながりを感じることもある」（父親 77.2%、母親 86.2%）と、父母間で差がみられる。それ以外の項目ではいずれも、父母ともに「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合が 9 割を超えている。（図Ⅲ-5-4 本文 160p）

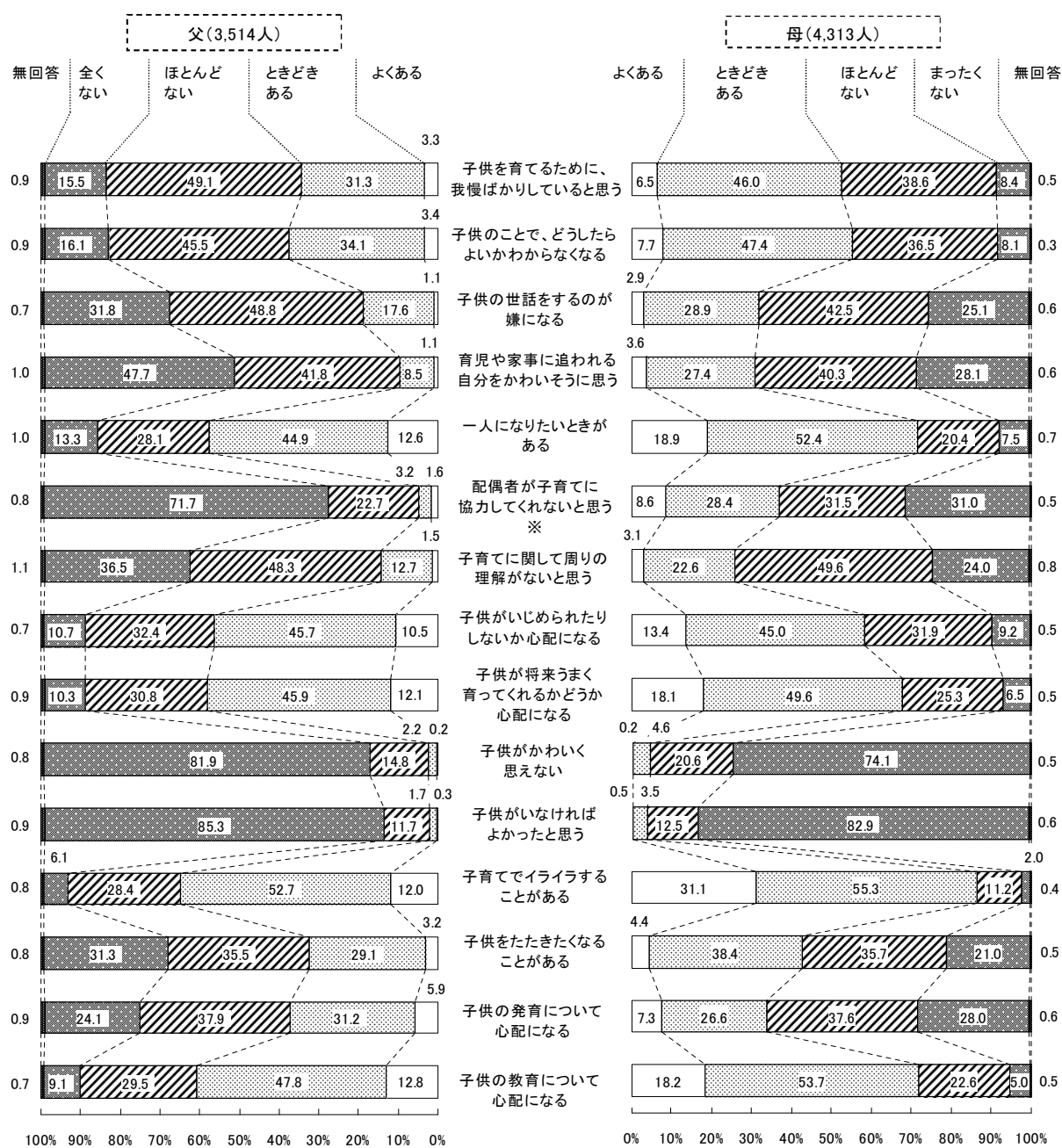
一方、負担に感じるものでは、すべての項目で母親の方が父親より「よくある」の割合が高くなっている。（図Ⅲ-5-5 本文 161p）

問 あなたは、次のようなことをお感じになることがありますか。

図Ⅲ-5-4 子育てをしていて日ごろ感じること（良かったと思うこと）－父母別



図Ⅲ-5-5 子育てをしていて日ごろ感じること（負担に感じること）－父母別



(注) ※ 「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている（総数 父=3,452 人、母=3,713 人）。

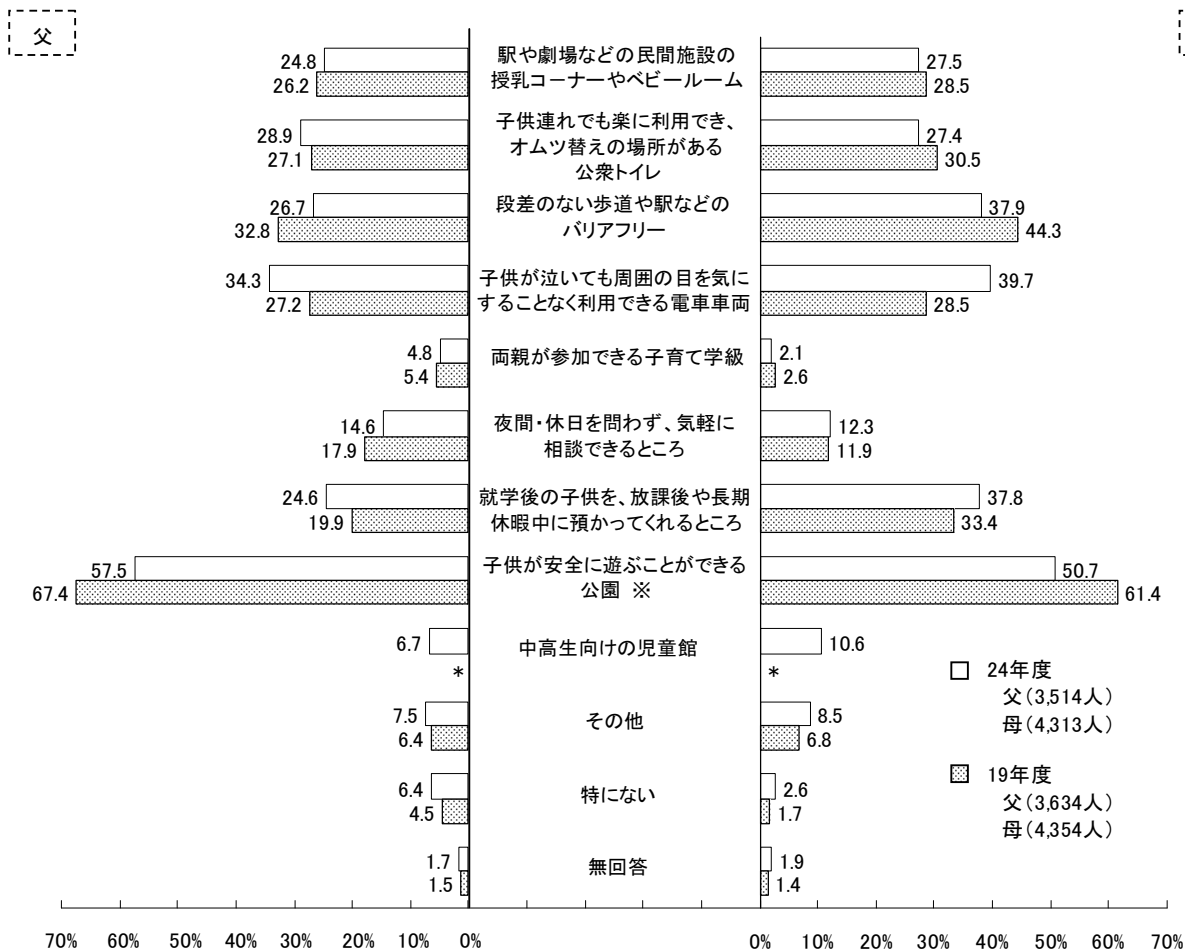
11 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－19年度調査との比較

子育てのために整備してほしいものは、父母ともに「子供が安全に遊ぶことができる公園」がトップ

子育てをしていく上で、又はこれまで子育てしてきた経験から、整備してほしいものは、父母ともに、「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高く（父親 57.5%、母親 50.7%）、次いで、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」（父親 34.3%、母親 39.7%）と続いている。（図Ⅲ-6-1 本文 168p）

問 あなたが子育てしていく上で、またはこれまで子育てしてきた経験から、整備してほしいものは何ですか。

図Ⅲ-6-1 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－19年度調査との比較



（注1）19年度調査では、※は「子供を安心して遊ばせられる公園」としていた。

（注2）* は19年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

12 安心して子育てできる地域か

安心して子育てできる地域だと思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」、8割

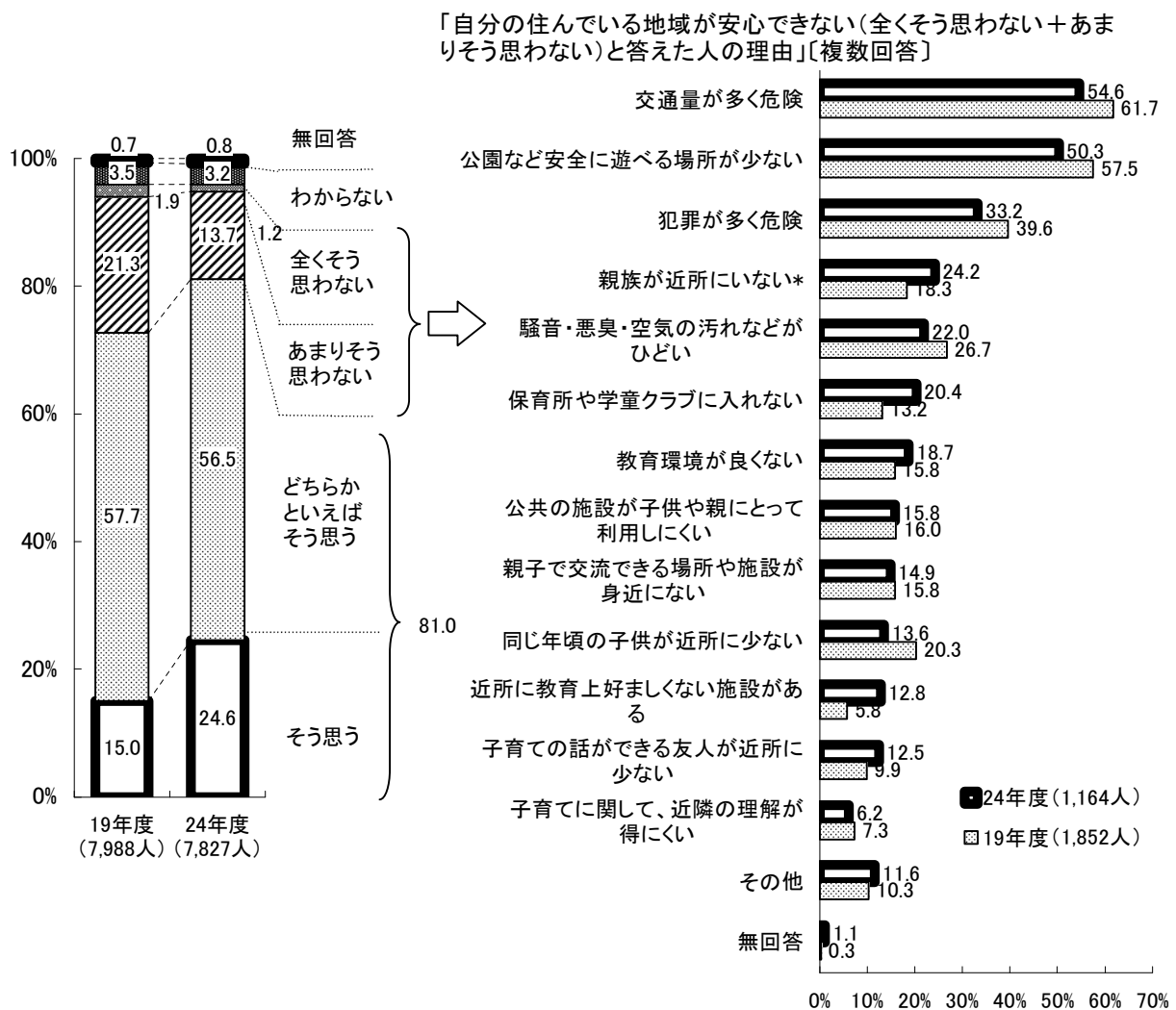
自分の住んでいる地域が、安心して子育てできる地域かどうか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 81.0%で、19 年度（72.7%）に比べて、8.3 ポイント増加している。

また、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した 1,164 人に、その理由を聞いたところ、「交通量が多く危険」の割合が最も高く 54.6%、次いで「公園など安全に遊べる場所が少ない」が 50.3%となっている。（図Ⅲ-6-2 本文 172p）

問 あなたの住んでいる地域は、安心して子育てができる地域だと思いますか。

問 安心して子育てができない理由は何ですか。

図Ⅲ-6-2 安心して子育てできる地域か－19 年度調査との比較



（注）19 年度調査では、*は「親類が近所にいない」としていた。

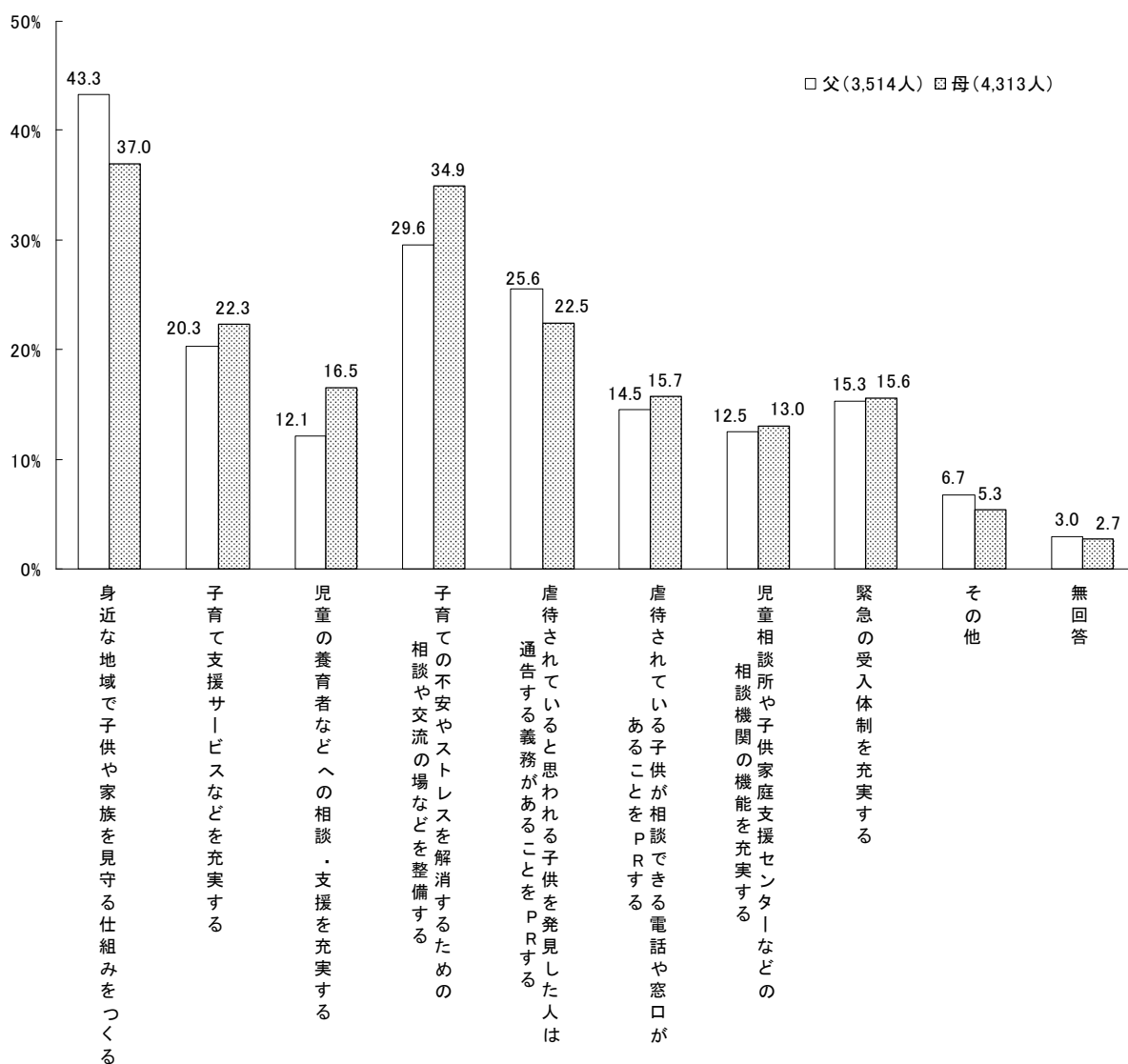
13 児童虐待の防止策〔複数回答〕

児童虐待の防止策は、父母ともに、「身近な地域で子供や家庭を見守る仕組みをつくる」の割合が最も高い

児童虐待を防ぐ社会的な働きかけの中で大切だと思うことを聞いたところ、父母ともに「身近な地域で子供や家庭を見守る仕組みをつくる」の割合が最も高く（父親 43.3%、母親 37.0%）、次いで、「子育ての不安やストレスを解消するための相談や交流の場を整備する」（父親 29.6%、母親 34.9%）と続いている。（図Ⅲ-6-5 本文 181p）

問 児童虐待を防ぐ社会的な働きかけの中で、大切なことは何だと思いますか。

図Ⅲ-6-5 児童虐待の防止策〔複数回答〕



14 家族のコミュニケーション

(1) 子供と一緒に過ごす時間（平日と休日）

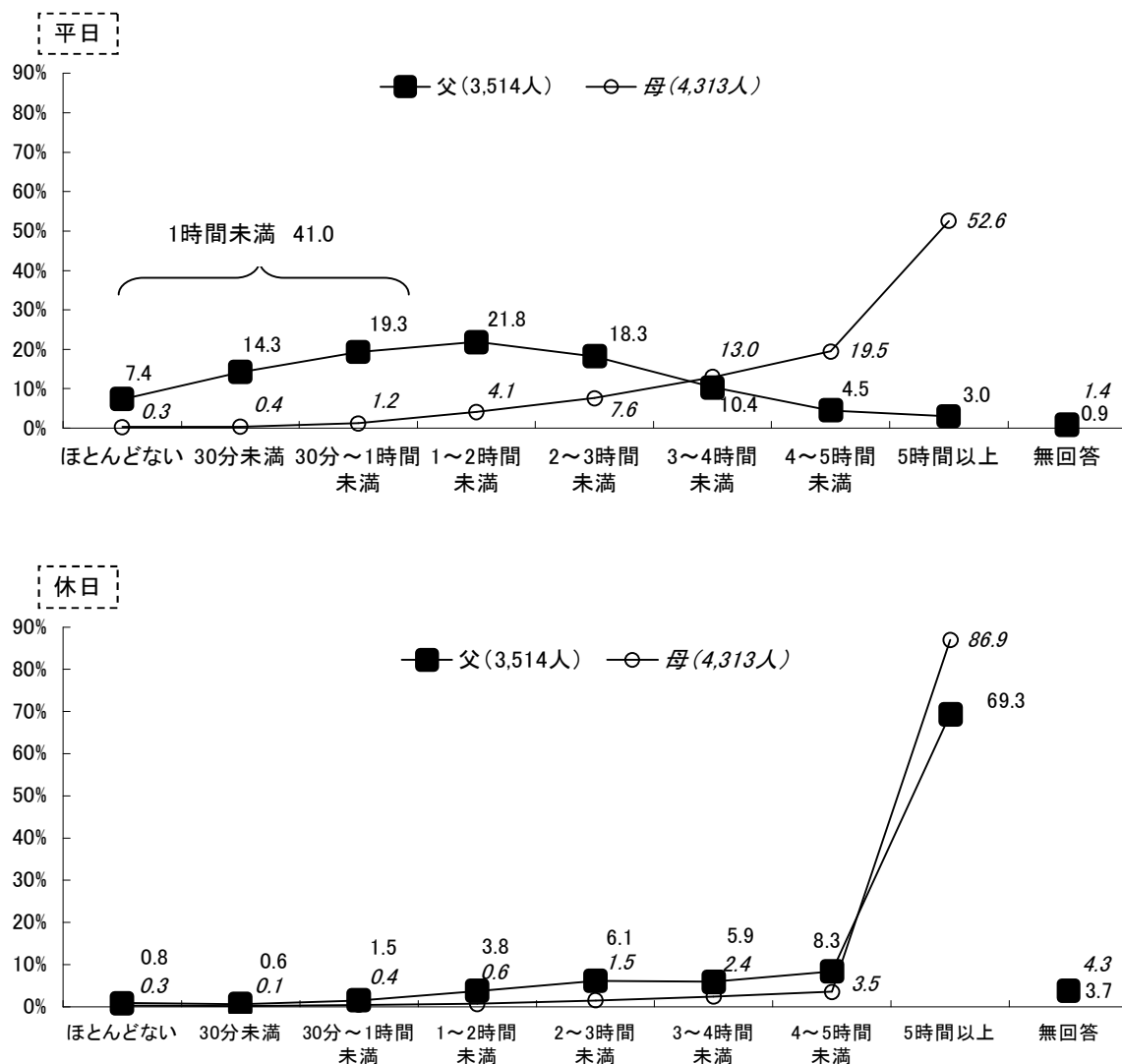
平日に子供と過ごす時間が「1 時間未満」の父親は、4 割

平日に子供と一緒に過ごす時間は、父親は「1～2 時間未満」の割合が 21.8%、母親は「5 時間以上」が 52.6%とそれぞれ最も高くなっている。特に、父親では、1 時間未満（ほとんどない+30 分未満+30～1 時間未満）の割合は 41.0%と 4 割を超えている。

休日は、父母とも 5 時間以上の割合が最も高くなっている。（父親 69.3%、母親 86.9%）。
（図Ⅲ-7-1 本文 184p）

問 子供と一緒に過ごす時間は 1 日どれぐらいですか。平日、休日それぞれについてお答えください。

図Ⅲ-7-1 子供と一緒に過ごす時間（平日と休日）



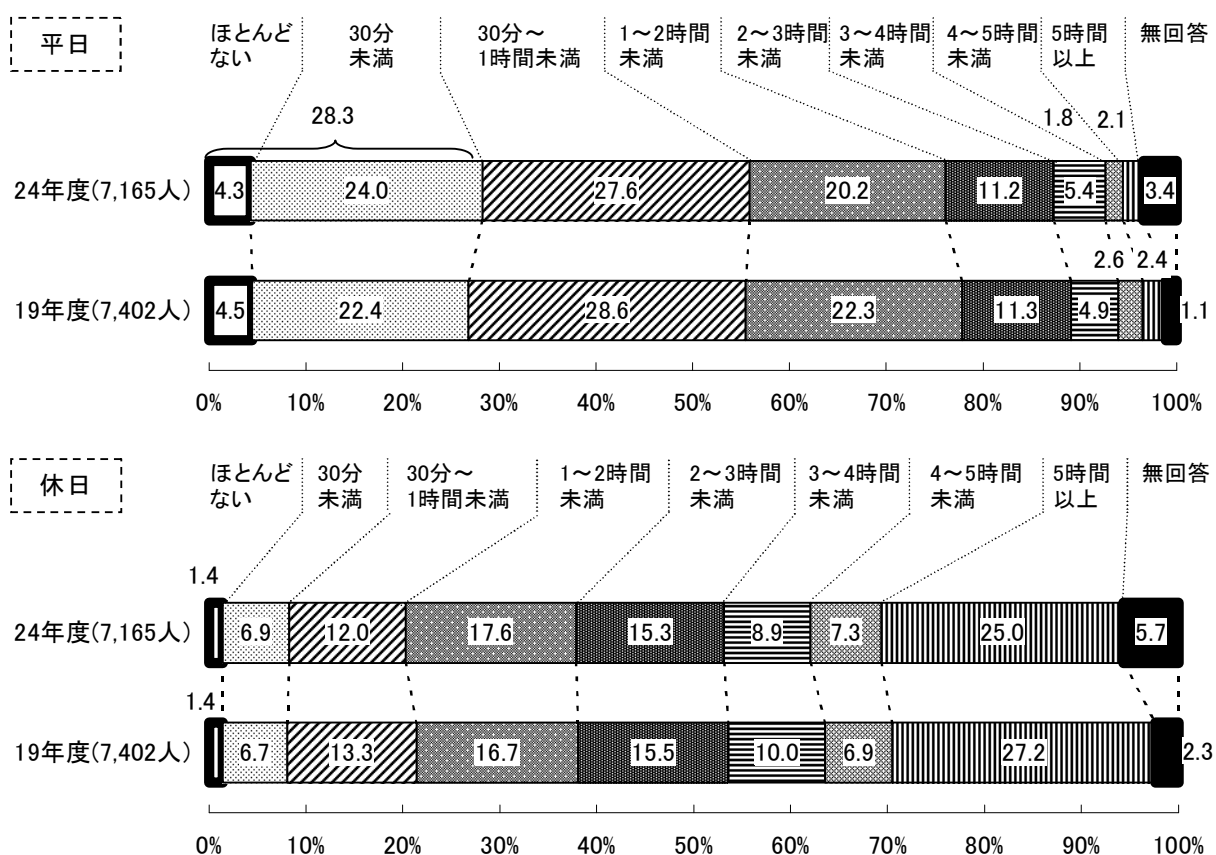
(2) 夫婦の会話時間－19年度調査との比較

平日の夫婦の会話時間は、「ほとんどない」と「30分未満」合わせて、3割

夫婦の会話時間を平日、休日別に聞いたところ、平日は、「30分～1時間未満」の割合が最も高く27.6%、休日は「5時間以上」が25.0%と最も高くなっている。また、平日は、「ほとんどない(4.3%)」と「30分未満(24.0%)」を合わせた割合は28.3%と約3割となっている。(図Ⅲ-7-5 本文193p)

問 御夫婦の1日の会話時間はどれぐらいですか。平日、休日それぞれについてお答えください。

図Ⅲ-7-5 夫婦の会話時間－19年度調査との比較



15 夫婦の家事・育児分担

(1) 夫婦の家事・育児分担の割合（現実）－従業員上の地位別

妻が正規の職員・従業員の場合でも、家事・育児分担「夫 5、妻 5」は 1 割に満たない

夫婦の家事・育児分担の割合（現実）を従業員上の地位別にみると、妻が正規の職員・従業員では、「自分 9、配偶者 1 (21.2%)」と「自分 8、配偶者 2 (23.0%)」を合わせた割合は 44.2%、妻がパート・アルバイトでは 60.1%となっている。

また、「自分 5、配偶者 5」の割合は、妻が正規の職員・従業員でも 9.0%と、1 割に満たない。(表Ⅲ-8-1 本文 204p)

表Ⅲ-8-1 夫婦の家事・育児分担の割合（現実）－従業員上の地位別

	総 数	自 分 1 0 配 偶 者 0	自 分 9 配 偶 者 1	自 分 8 配 偶 者 2	自 分 7 配 偶 者 3	自 分 6 配 偶 者 4	自 分 5 配 偶 者 5	自 分 4 配 偶 者 6	自 分 3 配 偶 者 7	自 分 2 配 偶 者 8	自 分 1 配 偶 者 9	自 分 0 配 偶 者 1 0	無 回 答
夫	100.0 (3,452)	0.2	0.8	1.8	1.3	1.4	6.7	5.6	17.2	30.2	26.6	4.5	3.8
就業	100.0 (3,404)	0.1	0.8	1.8	1.3	1.3	6.6	5.7	17.3	30.3	26.7	4.5	3.6
自営業	100.0 (420)	0.2	1.2	1.9	1.9	1.0	8.1	6.2	13.8	28.6	26.9	5.0	5.2
正規の職員・従業員	100.0 (2,676)	0.1	0.7	1.8	1.2	1.3	6.3	5.8	17.9	31.1	26.3	4.3	3.3
会社・団体等の役員	100.0 (182)	-	0.5	1.6	0.5	1.6	5.5	3.3	16.5	26.9	31.3	7.7	4.4
パート・アルバイト	100.0 (27)	-	-	-	3.7	-	11.1	7.4	25.9	25.9	14.8	-	11.1
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (14)	-	-	-	-	-	14.3	-	21.4	21.4	42.9	-	-
契約社員・嘱託	100.0 (37)	-	-	2.7	2.7	2.7	8.1	13.5	2.7	35.1	24.3	5.4	2.7
非就業	100.0 (26)	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	15.4	-	3.8	11.5	15.4	7.7	23.1
妻	100.0 (3,713)	4.7	29.7	29.9	17.7	7.8	4.5	0.5	0.7	0.5	0.2	0.1	3.7
就業	100.0 (2,036)	4.7	25.8	27.8	19.2	9.5	6.3	0.7	0.8	0.6	0.1	0.1	4.4
自営業	100.0 (154)	3.2	30.5	26.6	15.6	10.4	5.8	-	1.9	-	-	-	5.8
正規の職員・従業員	100.0 (756)	2.4	21.2	23.0	23.4	13.5	9.1	1.5	1.2	1.1	0.3	-	3.4
会社・団体等の役員	100.0 (36)	16.7	19.4	25.0	11.1	11.1	11.1	-	-	2.8	-	-	2.8
パート・アルバイト	100.0 (879)	6.9	28.8	31.3	17.3	5.9	3.9	0.2	0.5	0.2	0.1	0.1	4.8
労働者派遣事業所の派遣社員	100.0 (43)	-	27.9	27.9	18.6	11.6	2.3	2.3	-	2.3	-	2.3	4.7
契約社員・嘱託	100.0 (80)	2.5	25.0	37.5	17.5	8.8	6.3	-	-	-	-	-	2.5
非就業	100.0 (1,654)	4.8	34.2	32.6	15.9	5.6	2.4	0.3	0.5	0.4	0.2	0.2	2.8

(2) 夫婦の家事・育児分担についての理想と現実のギャップの有無

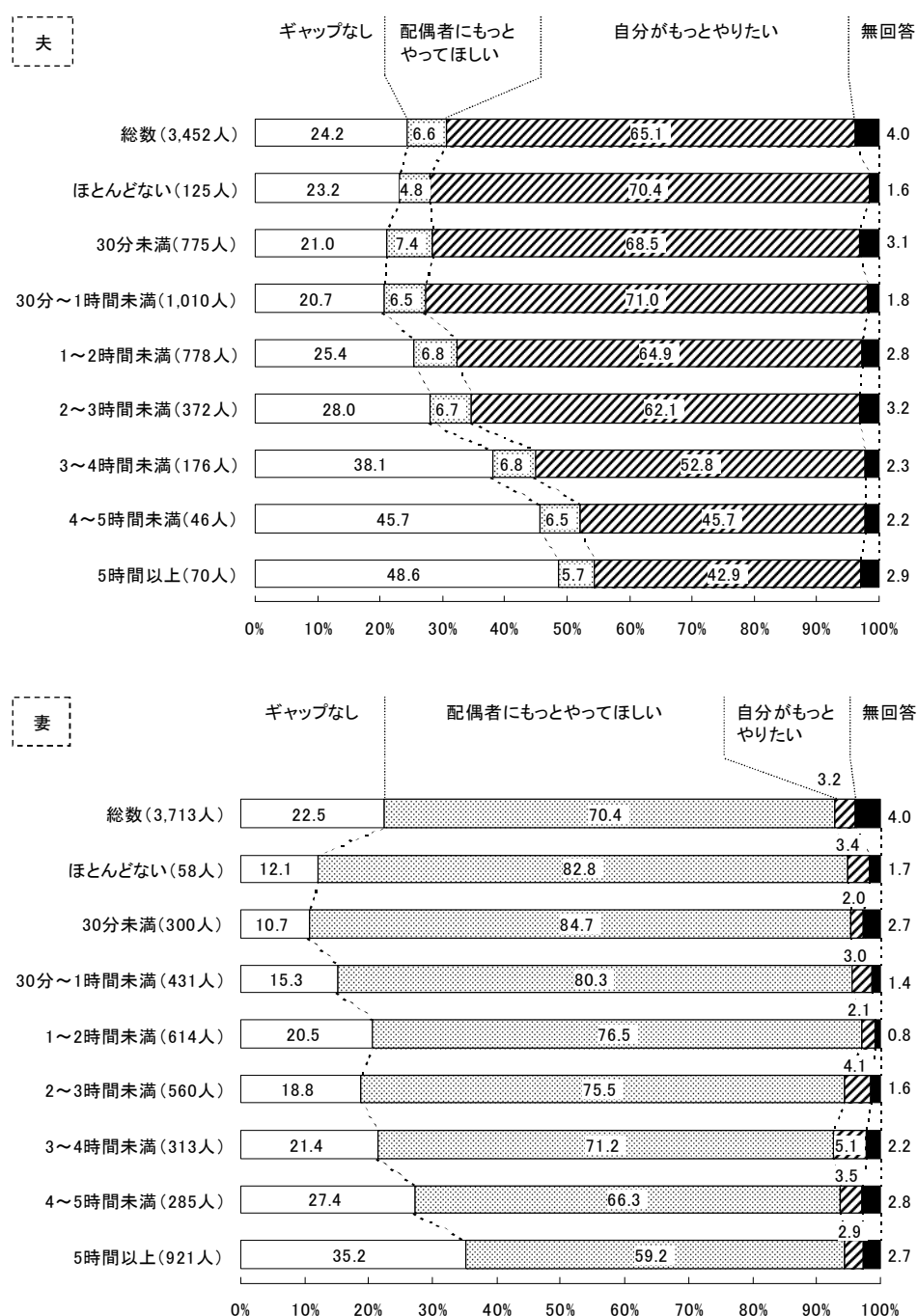
－夫婦の1日の会話時間（平日）別

平日の夫婦の会話時間が長いほど、家事・育児分担についての理想と現実の「ギャップなし」の割合が高い

夫婦の家事・育児分担についての理想と現実のギャップの有無を夫婦の1日の会話時間（平日）別にみると、夫婦とも、概ね平日の会話時間が長いほど、「ギャップなし」の割合が高くなる傾向がみられる。（図Ⅲ-8-7 本文 211p）

図Ⅲ-8-7 夫婦の家事・育児分担についての理想と現実のギャップの有無

－夫婦の1日の会話時間（平日）別



16 自分がもっと家事・育児をやるための条件〔複数回答〕－帰宅時間別

自分がもっと家事・育児をやるための条件のうち、「自分の勤務時間が短縮できれば」の割合は、午後 8 時台に帰宅する夫は 6 割、午後 9 時台は 7 割、午後 10 時台は 8 割

自分がもっと家事・育児をやるための条件を帰宅時間別にみると、夫は、午後 6 時 59 分以前に帰宅している人では「自分の家事能力が向上すれば」の割合が最も高くなっているが（43.2%～56.6%）、午後 7 時以降では「自分の勤務時間が短縮できれば」が最も高くなり（52.9%～81.7%）、いずれの時間帯でも半数を超えている。（表Ⅲ-8-6 本文 213p）

表Ⅲ-8-6 自分がもっと家事・育児をやるための条件〔複数回答〕－帰宅時間別

	総 数	自 分 の 勤 務 時 間 が 短 縮 で き れ ば	自 分 の 職 場 が 自 宅 か ら 近 く な れ ば	自 分 が 育 児 休 業 等 を 取 得 で き れ ば	配 偶 者 以 外 の 親 族 の 理 解 が 得 ら れ ば	自 分 の 家 事 能 力 が 向 上 す れ ば	配 偶 者 の 収 入 が 増 え れ ば	配 偶 者 が 仕 事 に 就 い た ら	そ の 他	無 回 答
夫	100.0 (2,247)	67.0	24.7	13.4	1.2	32.8	7.9	13.0	7.4	3.4
働いている	100.0 (2,218)	67.3	24.6	13.6	1.2	32.3	7.9	13.1	7.4	3.4
午後5時以前	100.0 (37)	40.5	5.4	16.2	2.7	43.2	2.7	10.8	5.4	5.4
午後5時～午後5時59分	100.0 (53)	30.2	9.4	13.2	—	56.6	5.7	5.7	11.3	7.5
午後6時～午後6時59分	100.0 (166)	38.0	18.7	7.8	2.4	45.8	7.8	10.8	10.8	4.2
午後7時～午後7時59分	100.0 (344)	52.9	22.1	11.6	1.2	40.7	9.3	16.9	6.4	7.0
午後8時～午後8時59分	100.0 (442)	66.1	25.8	13.1	1.8	34.2	7.0	14.0	10.6	1.8
午後9時～午後9時59分	100.0 (375)	75.5	28.0	11.2	0.3	26.9	9.1	14.4	6.1	2.9
午後10時～午後11時59分	100.0 (482)	81.7	25.9	15.8	1.0	26.3	7.7	12.2	3.9	2.3
深夜・早朝	100.0 (205)	81.5	29.8	21.0	0.5	19.0	9.3	10.7	7.3	2.9
働いていない	100.0 (14)	28.6	28.6	—	—	92.9	—	7.1	14.3	—
妻	100.0 (117)	29.9	14.5	0.9	1.7	52.1	25.6	6.8	15.4	7.7
働いている	100.0 (66)	48.5	25.8	—	1.5	45.5	31.8	9.1	9.1	6.1
午後5時以前	100.0 (10)	10.0	10.0	—	—	60.0	10.0	—	—	10.0
午後5時～午後5時59分	100.0 (11)	9.1	9.1	—	—	54.5	45.5	9.1	36.4	9.1
午後6時～午後6時59分	100.0 (12)	66.7	25.0	—	—	50.0	16.7	8.3	—	—
午後7時～午後7時59分	100.0 (10)	60.0	30.0	—	—	50.0	50.0	10.0	10.0	10.0
午後8時以降	100.0 (11)	72.7	45.5	—	9.1	45.5	36.4	9.1	9.1	9.1
働いていない	100.0 (51)	5.9	—	2.0	2.0	60.8	17.6	3.9	23.5	9.8

（注）妻の「午後 8 時～午後 8 時 59 分」「午後 9 時～午後 9 時 59 分」「午後 10 時～午後 11 時 59 分」「深夜・早朝」については、いずれも少数であったため、「午後 8 時以降」としてまとめている。